

## トマス・ウイン書簡 その二

鈴 木 進 訳

一九八五年に出版した英文 THE LETTERS OF THOMAS CLAY WINN に収録の百十通の手紙のうち、訳者は六十通を日本語に訳し、これまでに三十通を北陸学院短期大学紀要、第十八号および十九号に掲載した。今回は残りの三十通を第二十号に載せ、一応の区切りとしたい。

時期としては一八九三年から一九〇七年、ウインの活躍の場も金沢、大阪そして満州にいたる十四年間のものである。

内容的には金沢伝道と合わせて北陸英和学校（原文はボーイズ・スクール）に関する記事が多い。この時期、反動的國家主義が勃興する中でミッシオン・スクール受難の有様を、政府通達によって聖書の授業の禁止、市民による生徒の通学妨害、公立学校の整備の影響と生徒減など宣教師による学校の経営難を報告している。金沢ミッシオンのもうひとつの教育事業、女学校については特にミス・ヘッサーの病氣、帰国、召天を伝えている記事が印象深い。ヘッサーの協力者であったウイン夫人、イライザの手紙を二通含めてある。彼女の手紙の中では孤児院の設立、アイスクリーム、オルゴールなど西洋文物の紹介の様子が興味深い。さらにウイン夫人自ら日本語訳をした『ジョン・ペイトンの伝記』出版を報告する記事もある。（ミセス・ウイン訳、ペートン自伝『東京基督教書類会社、明治三十八年五月八日発行、B6版一六五ページ』）

ウイン夫妻は一八九八年には金沢を去り大阪、堺伝道に携わるこ

とになる。この時期興味深いのは日露戦争の講和の労をとったセオドア・ローズヴェルト米大統領にあては手紙である。内容は日本国の天皇にイエス・キリストを信仰するよう働きかけを願っている。その結果について述べている手紙はない。

大統領あての手紙を書いた同じ一九〇六年に、ウイン夫妻は満州にいる日本人のための伝道に招かれ、彼の地での伝道、大連西広場、日本基督教会会堂の建築に当たったことなどが記されている。渡満の際利用した大阪商船の中橋社長がウインの金沢時代の教え子であって、船賃に便宜を計ってくれた記事は中澤正七編『トマス・ウイン傳』にも触れられているが、伝道上の摂理を示す逸話として面白い。

ウインの手紙は同『トマス・ウイン傳』の内容をウイン本人の手で裏づけている。しかし当然『ウイン傳』あるいは柴田博陽著『ウイン夫人傳』では触れられてない記事も多く含まれている。

『金沢教会百年史』によればウインの来沢は一八八九年十月四日と記されている。それから数え来年は百十年目の年になる。さらに二年後の一九九一年はウイン生誕百四十年、没後六十年、および金沢教会創立百十年という記念すべき年にあたる。それらを覚え、この拙訳がウインを知る上で多少なりとも新資料ともなれば訳者の大きな喜びである。

ニューヨーク市五番街五三番地

ダブリュー・ヘンリー・グラントあて

拝啓 グラント殿

ミツチエル博士が亡くなられた、と聞いて金沢の私たちは大きなショックを受けています。現在は本国にいる宣教師が最近よこした手紙によつてミツチエル博士が重病であるのは知っていました。が、博士の生涯の終りがこのように突然おとずれようとは、私たちは心の備えが出来ておりませんでした。偉大にしてすぐれた人物が長老派教会から取り去られたのです。伝道局としては最大の奉仕者の一人を、そしてわれわれミツションとしては真実の友、また賢明な助言者を失つてしまいました。先に下さったあなたの手紙にもあったように、神の導きにより伝道局がミツチエル博士の後任を選任できるように祈らねばなりません。ミツチエル博士が亡くなったことによる後任を伝道局がどこに求められるのか私にはわかりません。長い間彼は外国伝道の賢明な擁護者として何者も恐れずに、また熱心に卓越した働きをしてきました。私は子供の頃からそのような博士の姿を記憶しております。

ミツチエル博士の写真を五十枚から百枚、金沢の吉田さんに頼んで手に入れてほしい、との手紙を二、三日前に受取りました。七五枚ほど注文しましたから、近くお送りできるでしょう。費用は送る時点で知らせます。ミツチエル夫人に差し上げようと博士の大きな写真も注文しましたから、一、二ヶ月のうちに送れると思います。夫人はアメリカで手に入る写真で十分と思つていらつしやるか

一八九三年六月二十日  
金沢にて

も知れませんが、吉田さんの技術は大変優れていると思いますので、もしミツチエル夫人が大きな写真を手に入れるために特に何もしておられないのでしたら私たちが送るつもりでいる写真をご覧になるまでお待ちになったらいかがでしょうか。

『ザ・チャーチ』誌をちようと受け取ったところです。それには伝道局の財政についての喜ばしいニュースが書かれていました。人々の心を動かして献金をする気持を起させ、わずかでも繰越金をもつて今年度を締めくくられるように導いて下さった神に心から感謝しております。外国伝道が百万に達したのでミツチエル博士も共に喜んで下さっているのではないのでしょうか。数時間にして財政の様相を一変させてしまうほどどんなにお金が入ってきたその最後の一日、二日、会計担当ダレス氏の事務所に居合せたかったです。まことに感動的だったに違いありません。過去教ヶ月懸命に努力しただけのことがありましたですね。どうぞダレス氏におめでとうを言つてあげて下さい。そしてこれからの一年後、また彼がよい報告ができるようにと願っています。

私はこの方面に働く宣教師として多くのお金を請求しなくても済むならばどんなにか良いだろうと時として思うのです。しかし本国の教会に援助の金が無かったなら、どのようにしていろいろな国民に福音を伝える仕事に拘わつていきますでしょうか。

現在この町に受洗志願者が数名と熱心に求道する者が数名おります。このように報告ができて嬉しく思います。また金沢のまわりの各地からも、失望するようなことだけでなく希望が与えられるニュースを耳にします。最近遠い田舎から一人の老人がやってきて金沢で数日を過ごし、キリスト教について見聞きすることがありました。わが家に彼を招いて食事を共にしました。この小さな心遣いに対し

## トマス・ウィン書簡 その三

て彼がどんなに感謝をし、イエス・キリストについて深い興味を示し、キリストを本当に知りがっているかという態度を見せたか、もしあなたが彼の語った話を理解したらきつと嬉しく思われることでしょう。時間があれば興味深い事例をいくつかお話しできるので、今はその余裕がありません。この地の教会の牧師が辞任をし、去りました。私の仕事はかなり増えることになります。後任の牧師についての見通しはありません。

妻が家におれば、共に伝道局の悲しみをお察し申し上げますでしように。

敬具

トス・シー・ウィン

一八九三年十二月五日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピーあて

拝啓 今後はあなたが主事になられるとお知らせ、われわれ一同喜んでおります。伝道局のこの決定は至る所で大きな喜びとして受け取られていると聞いております。私個人としてもご一緒に喜びを表わし、今後の私たちの間のこの関係に期待をかけております。さらに私がこのように申しますのはミッシェンの一人一人の気持を私が代弁していると思つて間違いないからなのです。

昨年の夏、ウッドハル氏の帰国を認めるように提議しました。彼の子息が癒されるために、彼の帰国を全面的に賛成することにした

のです。今まで議決した中で最も急を要した事態だったと思われる。私の聞き及ぶところでは、ウッドハル氏の帰国後のミッシェンのとつた態度は賢明だったと思います。またウッドハル氏が伝道局に對して、いかに困難な状況にあったかを十分に知らせていたのがわかりました。勿論これは私自身の意見を述べたのにすぎず、さらに伝道局に何らかの行動をとるよう求めるものではありません。その処置を思い出してほしい、というのでもありません。ウッドハル夫妻に不愉快な思いをさせないためにも伝道局が二度とこの問題に触れないで、すでにミッシェンが下した判断を守つて行なわれるように願います。

先のダレス氏あての手紙の中で、本国にいる子供に對し一年に百五十ドルを支給するという伝道局の新しい規定は、現在本国にいて昨年八月に十五才になったわが家のメアリーにも適用されるだろうと書きました。伝道局が宣教師の子弟にそのような追加条項を設けて下さり、ご配慮とご親切を大変ありがたいと思います。頼るべきものとしては給与しかない宣教師たちが子供を本国に送つてどうやって教育を受けさせられるか私にはわからないものですから。

昨年の年次大会で決議されたように、辞任をしたラファティ女史の代わりに、金沢でのポーター女史を助ける婦人を任命してほしい、と伝道局にお願いしたのをご記憶のことでしょう。ポーター女史は姉妹の多い家族の出です。私はポーター女史、それに京都にいる兄のジェイ・ビー・ポーター師とは親しく、よく知っているのでついこの間ポーター女史に、どなたか姉妹を金沢に指名して下さいと嬉しいのだが、と話しました。しかしその時にはどの姉妹も彼女と一緒にこの仕事をしたい、と申しておらなかったで私は事を進めさせたいとは思いませんでした。最近姉妹の一人から届いた手紙に

よるとここでの仕事をしに行きたい、と言ってきました。その姉妹は現在シカゴでダイヤー女史と共に都市圏宣教師をしております。私はきつと彼女が現在空席になっている金沢での仕事にふさわしい婦人だと思っております。ポーター女史と共に働くように取り計られるのはこのうえもなくよいことと思うのです。ポーター女史の話では、この件の決定には十分に彼女の健康を考えて慎重を期すべきだと思えます。彼女はシカゴに行つてから気管支炎を患っていました。しかも西日本の海沿いの地方は湿度が高いのです。しかし気候は人によつて影響の仕方が異なりますので今のところ何とも申せません。福井にいたフルトン師はやはり気管支炎で苦しむのではないかと思われましたがこちらにやつて来てから特に困つたこともなく、数ヶ月前に、多分日本でも優れた医者の一の口から、もう病気の心配はないと言われました。彼の場合、気管支炎も喉のどこかに疾患があることがわかりました。彼女の任命に関してはきつとポーター女史とポーター師からさらに詳細な手紙が届くことと思います。もし健康上の妨げがないならば、その他に推薦するのに問題はないだろうと思います。私はポーター女史の妹君が適任であると聞いておりますから、上に述べたミッシヨンの求めに応じて任命される人物として彼女こそその人であろうと思うのです。

書き込み用紙を受取りました。早速ミッシオン・ハウスに送るつもりです。その表から男子校の生徒数が昨年より増えているのがお分かりでしょう。小学校は多分少し増加していますが、女学校はかなり減少しました。しかしそれは学校の責任ではありません。金沢のこの学校ほど正しく忠実に運営されている学校を私はほかに知りません。過去数年来、外国人宣教師の行く手を妨げる数々の困難が増しているのは間違いない事実です。全体としてわれわれの仕事が

どういうことになるのか、総括的に予測することは誰れにも出来ません。しかし多少は前進も見られない訳ではありません。この町で過去半年間に八人に洗礼を授けました。他の町で受洗した者も数名おりますし、五人が洗礼を待つております。

教会の出席はまったくといってよいほど減少しております。しかし出席している者は大変熱心です。十一月十三日ヘイワース氏夫妻が着任したのを感謝をもつて報告いたします。お二人とも立派な人たちで、この地で長く続けて働けるように、健康と力が与えられるようにと願うものであります。御霊に導かれ、私たちが主の御旨を知つてそれに従い、主の御栄をあらわすことができるよう助けたまえ。

妻からも宜しくと申しております。

トス・シー・ウィン

一八九四年一月一日

ニューヨーク市五番街五三番地  
ジョン・ギレスピー牧師あて

新年おめでとうございます。ご多幸を祈ります。

例年のように今日は日本人の友人たちのためにほとんど全部の間を用いました。日本人は新年の日の訪問を大事にしますので、今日は私たちのところにも百人ちかい客がありました。それは一日だけに限ったことでなく、三、四日は続けて訪問客が来るものと思います。

先週の土曜日、金沢支局の統計を発送しました。その件につき考えてみましたら、これから述べる点を省略していたのに気付きました。九月中頃から金沢に来ていた有資格牧師のことを報告するのを落しました。彼は男子と女子の両方の学校で図画を教えている他に、できる範囲で説教と伝道の業をいたしております。これに対する報酬として月十円を受取っております。図画の教授の十円は報告ずみの給与の中に含まれています。説明を要する項目は金沢の「増加」の欄の四十人という数字です。その数字は金沢の二つの教会が受入れた数の全体ですが、その中で実際の増加数は二十人だけです。というのは一年間に二十人が除名になっているからです。

学校に関する報告の中に欄がなかったので、女学校の寮生七名だけ、男子校の九名の寮生が援助を受けているのを触れていません。男子の二名は宣教師個人より、他の九名はミッションの基金から援助を受けています。

新たに私たちを襲っている深刻な問題について書きましょう。一週間前、県政府からの通達で男女両方の学校においてこれ以上聖書の教授を認めない、と言ってきました。それが必修であろうと選択であろうと、今や全面的に禁止となったのです。この問題をめぐって数回会義を開きました。どのようなになるか、前途は今もってはっきりしません。われわれ外国人宣教師も日本人クリスチャンも聖書の教授は諦めないとの見解を表明しました。現行憲法のもとでクリスチャンの権利と考えられるものを守るために、あらゆる合法的手段を用いようと思います。地方政府の考えや議決だけをもって、それが私たちに對する決論とするには納得しかねます。私たちは自信をもって中央政府に上訴します。いやしくも憲法が信仰の自由を認めているなら、県政府のこの度の決定は明らかに逆の動きになるで

しょう。もし本当に宗教の自由を享受できないというのなら早く知らせた方がよい。私には今度の事件がわれわれの、そして他のすべての者の今後を導く試金石とすべきだと思われるのです。この問題がどのような形をとっていくかは続けてご報告しましょう。県当局の主張や見解によれば私たちの学校は政府の学校と同程度の内容である。官立学校では宗教教育を認めてない。従って私たちも学校での聖書の教授が許されない、ということです。しかし私たちの政府の学校ではありません。数ヶ月前中学校という名前を認めてもらいたいと願ったところ県は中学校という名前を与えるには資格が不十分だとはっきり言ったのでした。もともと金沢に働き手を派遣してほしいと願った件について、私たちの今おかれている状況がかわりになるでしょう。そういうわけで私たちの学校をどうするか、見通しがつくまで行動をすべて先にのばしましょう。その間に聖書を禁止された場合どうしたらよいかわ道局のご指示をいただきたい。今度の決定が取消されない場合にはこの学校を諦めざるを得ないでしょう。信者の家庭の子弟にさえキリスト教教育を施すことができなくなり、学校において青年男女を教育し信仰に導くのはなおさら不可能になるでしょう。

学校の性格を変えれば続けて聖書を教えることも認められ、金沢やその地域の若者たちに対してよい働きかけもできるでしょう。日々私たちはこの問題を主にお委ねし助けと導きを祈り求めています。神の助けと窮地から解放されることのみがわれわれの望みです。悪魔が全力を尽して真理の教えを妨げ、滅ぼそうとやっきになっているこの時、日本のために祈って下さい。

敬具

トマス・シー・ウィン

一八九四年一月二九日  
金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓

今度の郵便物の中のヘッサー女史に関する決議案を知って驚きかつ悲しまれることでしょう。彼女がどんなに深刻に病気に悩んでいるか、前途にどんな苦しい試練があるかを知って私たち一同大変悲しんでおります。当分のこととはいえ、私たちの仲間から女史を失わなくてはならないかと思うと、それは大きな悲しみです。おそらくは今より丈夫になって私たちの所へ戻って来られるであらうし、それも早く帰国すればそれだけ早く、選ばれた働きの場に姉妹の姿が見られるだろうと思うと慰められます。

私が支局を代表して彼女の状態を知らせるようになりました。ヘッサー女史は日本に戻ると同時に、明らかに気候のせいひどく体を壊わしているのがわかりました。しかし金沢にいる者のうち誰れかが病気の状態はどのようなものか気付くまでに数ヶ月がすぎてしまいました。

先の休暇でアメリカにいた時に治療を受け、類繊維腫であることがわかったのです。医者はすぐにどうしてもという事態ではないだろう、また腫瘍の大きくなるのは薬で止められるかもしれないと思い、その時点ではそれを手術でもって取除くことをしなかったのです。ヘッサー女史はカリフォルニアにいて今までよりずっと健康を取り戻していたので、もしあのまま続けて彼の地に留まっておれば元気になり体力も付いたでしょうに。

しかし彼女の思いは金沢の地にあったのでした。体の状態が許すなら生涯を捧げたここでの仕事に戻るのが自分の務めだと感じたのです。医者に相談の結果、先に伝道局が受取ったように、彼女の健康状態なら続けて日本にいても大丈夫との健康証明書を手にしたのでした。私が今述べたように、女史の体は決して良いとは言えないのです。彼女の病気は絶えず悪化し、今では常時痛み悩まされ、時には激しい痛みにおそわれ外出もめったに出来ないほどののです。体の状態からいえば、彼女が日本に戻ろうとする以前に手術をしなかったのは間違いでした。しかし戻った後どうなるかは予想のつかありません。ヘッサー女史は主事医と手紙で連絡をとり合って、もし彼女が希望するなら医者はいつでも手術ができる手筈をとのえています。そして本人の体力が手術に耐え得るだけの状態になるのを待っています。

女史はこのようにすぐ、伝道局にもう一度休暇を願い出ては迷惑を掛けるだろうと心配しています。彼女は休暇が認められないのなら辞任をしようと考えています。私たちは皆でこの件につき十分に考え、彼女には休暇を願い出るようにと勧めました。なぜそう勧めたか私の考えを手短かに述べましょう。女史は十一年半伝道局の仕事に携わってきました。その間一年半を除いて長いこと彼女の体にとって辛い気候の外国伝道に携わってきたのです。気候の差し障りさえなければ続けて今の立場に留まることができでしょうに。十年間、伝道活動の最前線にあって最も忠実で有能な宣教師の一人でした。私は女史を個人的にも知っていることから、女史が仕事に一身を挺し、神に対する愛から生まれた熱心さと忠実さを持ち、さらに主の御栄のために尽くしているのをこの私が証明いたします。

伝道局の働きを助けるためには自分の最後の一セントをも惜しまず用いるほどの人でなかったならば、困難な今の時に何ほどの当てになるものがあつた筈でしょう。ところが彼女は自分の健康状態も体格も頑丈だったので、自分自身のための備えをするのをすっかり忘れておつたのでした。

ヘッサー女史は日本語の習得において並外れて上達しました。彼女ほど流暢に言葉が話せる者は他に多くありません。それをもつてしてもいかによく彼女が日本人の特質を知っているか、また長いこと彼女と知己の間柄の人々の尊敬を受けているかが考えられるでしょう。そこで今回ヘッサー女史は帰国をし、一年か一年半仕事を離れなくてはなりません。伝道局としては、代わりの者を誰れか派遣するつもりで彼女に辞任を勧めるよりは休暇が延びた分の費用を負担する方が賢明でしょう。たとえ誰れか別の人が彼女のポストに着いたとしても女史の得ている信望と真価と有用さにとつて代わるようになるには数年を要するでしょう。現状においてミッシェン本部に送るよう決定したヘイネス医者の手紙を、必要な医者の証明書代わりとして同封いたします。ヘッサー女史は二、三ヶ月間医者のもとに行けないし、さらに彼女の場合は緊急を要するので伝道局との連絡のために長い時間は待てないのです。

日本で手術を受けることについてはヘッサー女史としてはどちらにしろ手術後の健康回復のために帰国しなくてはならなくなるであろうから得にならないと感じています。それ以上に現在の彼女の健康状況では不可能です。それにまた薬を用いて良くなろうとためまぬ努力をしてきたにもかかわらず確実に悪化しているので回復はまったく望めないからです。従つて私の考えでは、むしろ伝道局としてヘッサー女史にこの度の休暇を与えなくてはならないと思うので

す。神の試練の手が彼女の上におかれている時に、伝道局として試みの中にある忠実な僕に必要な援助を喜んで与えて下さるものと私は確信しています。

敬具

トマス・シー・ウィン

一八九四年三月二六日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

先にお便りした後、私たちの学校の聖書教育の問題について、以前よりも光が見えてきました。

まもなく学校のカリキュラムの中で聖書の科目をもとの位置に戻せるのは確かです。最近採択したばかりの学科課程を変更しなくてはならないのかどうか、まだ十分には情報を手にしておりません。問題は学校便覧の中に、学生にキリスト教教育を施すという本校の目的が政府の納得するような形で十分明確に述べられてないという事実からすべてが生じているのです。私たちの表現が不十分だなどとは全く気がつかないまま、政府の側から何ら妨害を受けずに、またこの問題について何らそれらしきことも言われないで何年かやってきました。

先に述べたことでまだはつきりしない点、つまりカリキュラムを現状のまま続けられるかどうかという点につき近いうちにお知らせ

したいと思います。

小学校の件に関しては伝道局の意向をもっとお知らせいただきたい。小学校の聖書の授業の現状がどうなっているかについては以前に簡単にはお知らせしました。その学校が政府に認可され、生徒は無試験で公立学校に進学できるし、逆に公立の学校からこの小学校への転校もできるのでうまくいつています。もしその特徴に変化があれば学校の人気がなくなり、じきに生徒の数も減少するでしょう。伝道局としては私が近頃述べたような方法で聖書教育をしてもよろしいとお考えですか。聖書が選択科目ならば生徒たちは皆出席すると思います。それにその方が必修科目として出席しなくてはならなかった時よりも生徒への影響力はいつそう大きくなるものと考えます。私たちとしては伝道局が命ずるよう学校運営をしたいと願っていますから、このように特殊な事情の時の学科課程をどうすべきかについて指示を仰ぐ次第です。可能な限り早急に返事を下さい。

敬具

トス・シー・ウイン

このような紙を用いましてお許し下さい。手紙をほとんど書き終える頃になってから初めてミッシェンの便箋を使っていないことに気がついたのです。

ティ・シー・ウイン

一八九四年九月二六日  
金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓

私の記憶では、これは久しぶりのお便りになるかと思っています。そしてこの手紙を書き始めたのに郵便物締切の時間が迫っていますので詳しくは書ききれないでしょう。

わが家では兄の家族とアメリカからメアリーが来たのでいつになにご馳走でした。幼い(?)娘は来年の春まで手元におくことに決めました。あの娘はまだ子供なので、そのために勉強がひどく困ってしまふことはないと思うからです。兄の家族は今月十四日に横浜を立ち帰国の途につきました。今頃はおそらく太平洋の向こう側にいることでしょう。

この前お便りをした後で、特に男子学校において、そして女学校においてもきわめて容易ならざる厄介な事が起こっているのです。そのことのために無用な心配をかけたくないと思い、書くのを控えたのですが起こった事柄をすべて説明してみても詮無いことと思われる。私の宣教師生活においてこのような事件の経験は一度もありません。警察に訴えて、私たちの学校に通学したいと願っている生徒の保護を求めなくてはなりません。邪悪な考えをもつ輩が私たちを排除しようとして、そのような威しを計りさらに実際これまでに行動を起こすに及んで已む無く厳しい手段をとったのです。始末に負えない者は逮捕または戒告などということまでとつたのです。



## トマス・ウィン書簡 その三

学校のカリキュラムも変更し、一年前の変更する以前の形に戻しました。できれば今までよりいっそう徹底したクリスチャン・スクールにしようと思われました。しかしこのことについては今までの説明が不十分であるなら後日詳しく書きましょう。

今日の手紙で一番詳細に書きたいことは学校の中に工場部門を開始したいと思っている点です。この課程を設けようとしているねらいは、経済的に困っている学生たちが他に援助を求めずとも教育を受けられるような道を備えてやろうというのです。歯ブラシ工場はごく僅かな資金で始められることがわかりました。実際良質の歯ブラシが製造できます。販路さえ確保できれば成功まちがいなしです。もしこの工場がうまくゆけば私と妻が昨年の一月に開いた孤児院の子供たちをも援助することができるようになるでしょう。この地方には飢えに苦しむ多くの子供たちがいるが、そのうちのたとえ少数に対してであつても彼らに小さな愛の業をするように神が求めておられると思われれます。それにはどのような支えが得られるか私たちはほとんど知らないままに孤児院を始めましたが、私たちの資材が尽き果てたところに途中から加わる人がいて、今までのところ孤児院は続いています。将来はもっと大勢の人が加わるでしょう。

五番街五三番地の皆さんの中に誰れかわが歯ブラシ工場の製品を捌くための市場を見つけれられる人、もしくは見つけてやろうという人はいませんか。これが成功するかどうか唯一の期待は歯ブラシを売る市場がアメリカで見つけられるかどうかにかかっています。私たちの事業のためにどなたか労をとって下さる方がいたら大変有難たいのですが。製品は神戸から直接ニューヨークに船積みできます。しかしそれに税金がかかるのかどうかはわかりません。どうぞこの点を知らせて下さい。また上質の歯ブラシードースある

いは一グロス当りいくらぐらいになるかおおよそでいいから知らせて下さい。

皆元気にしています。

取急ぎ

トス・シー・ウィン

一八九四年十月一日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓

先日は大変に暗い内容の手紙を書きました。それがきわめて不十分に思われますのでもっと詳しく書かなければいけないと思ひました。

学校のカリキュラムを一年前の状態に戻した、といいましたがそれは正確ではありません。すっかり一年前の、変更以前の状態にしたのです。中心でない科目、たとえば図画とか軍事教練とかをなくし、学生たちには数学とか国語それに英語の充実した授業をしようと思ひます。日本人の教師の数を五人に減らしましたので、この計画が完全に実施された時には大いに経費の節約ができるでしょう。

学校は今のところ平穏快適であります。男女それぞれの学校の学生数は約三十名ずつです。製造部門が始まればきっと大勢の学生の世話ができると思ひます。歯ブラシをアメリカに船積みできる道が開

かれるよう真剣に祈らなくてはなりません。私たちは学生のためにこの種の労働を用意しようと長いこと計画し、実施をしたいと願ってきました。しかし青年たちを援助するための仕事として何も見つかりそうになかったのです。計画中の案が成功すれば神に感謝いたします。そのようにして彼らを援助し、教育が受けられるようになるなら、そこには三十名から五十名の若者の収容が可能になるでしょう。教員数を減らし節約できたお金の使い道についてご指示下さい。数ヶ月のうちに製造部門の方から学生を援助するだけの資金が用意できる見込みです。あるいは手近にいる数人の方々にブラシ製造を始めるべきかどうかためにご意見をお聞きたい。私としては後者の方が安全で最善の道だという意見です。もちろん浮いたお金の使用については支局の承認、採択を経てから後の話です。どちらの方法だったら伝道局の承認を一番得やすいか、考えをお聞かせ下さい。

日本人は現在この戦争のことで大いに興奪し沸き立っております。国民全部が戦争の勃発を歓迎しているようです。国民は代議政体を開始しようとして危険の多い時期を経てきました。本当にもう少して内戦も避けられないのではないかと思われるほどでした。国民はその危機を悟り、外国との戦争を始めることでもって内戦を避けた。そのために、いやそれもひとつの理由でもって国民全体が中国との戦争に賛成しているのです。われわれ外国人宣教師にはまだ危険は及んでいません。戦場はむろんわれわれの所からはるかに離れた所であって、今のところ危険はありません。しかしそのために伝道の働きは大きな影響を被っています。人々の心は戦争のことです。伝道のご用に仕える者の数は僅かです。戦争の結果がどうなるうとも、これら双方の国で御国の建設が前進するよ

うに祈ります。

それから、三日前の大変悲しい知らせについて書きましょう。ヘッサー女史が亡くなって、とうてい埋め合わせがきかない空白ができてしまいました。はたして伝道局は彼女がこの外国伝道において稀にみる能力を持ち、いかに適任であつたか知っておられたのでしょうか。彼女はその能力をもって心から主に献身していました。

私たち一人一人が覚える悲しみ、また支局の働きにとつて大きな損失をみる時に、私たちはただ黙するのみ、心の中で耐え難い苦しい思いをいたしております。「みこころをなさせたまえ」。近くヘッサー女史の生涯の素描がある印刷物に書こうと思っています。

一八九四年十一月二八日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓

西日本ミッションと私あての手紙、両方とも今月五日の日付になっていますが、ただ今落手しました。この地の男子学校に関連して製造部門を設けるよう提案しましたが、その件について伝道局の取った措置に私は大変驚いております。この問題はもちろん私の一存で決めたことでなく支局が決定したことです。かつて私は何かこの種のものがぜひ必要であろうと確信をし、今も変りなく信じている

ので心から賛成したのです。この学校にもそのような部門が加えられるようにとここ数年本当に願ってきました。

しかし、あなたも伝道局も私のいう「製造部門」というのを理解しておられないのが手紙を見てわかりました。恐らくははつきりともっと詳細にわかるよう、そのことを書かなかった私が悪いのです。われわれは職工教育をして、それをカリキュラムに加える積りはまったく有りません。そのようなことは少しも考えていないのです。私たちの目的は、キリスト教の教えと雰囲気のもとに青年たちに何らかの仕事を与え、それによって学校に学んでいる間の費用の一部あるいは全部を賄えるように、ただそれだけの積りなのです。恐らく製造部などと厳めしい名前前で呼ばずに「ワークハウス」といえば良かったのに、そうすればもっとよく分かっていただけたことでしょう。

この数年間、そう、学校を始めてからずっと大なり小なり学生の援助は行なってきました。しかしその見返りとして学生たちに何の労働もさせずに、直接に援助をする方式は絶対によくないと思うようになりました。とにかくこの国では若い人たちがそのような補助を受けるなら、それは彼らに極めて良くない影響を与えるということがわかりました。皆もそのように考え、繰り返しそう言っています。「若者に何か仕事を見つけて与えられるならば、それは素晴らしいことだ」と。伝道局は男女学校を援助するために支局にお金を支出するように決議し、そのように決めたのは良いことをしていると思っておられる。また実際その通りですが、お情けから援助を受けているより、自分たちの受けるお金が労働の報酬として受取っていると感じられる製造部門の設置資金を支出するように決議した方がはるかに賢明であるし、良いことではありませんか。後者のよ

うなやり方で若者たちに援助をするならば彼らの男らしい気持を失わせるし、腑甲斐ない依頼心を助長させるのに手を貸してしまうということが容易にお分かりになりませんか。青年たちの自立を助け、経済的に困窮しているわが校の学生たちのために作業所を開設しようとして九月から準備を続けてきたのは、本当の意味での援助をしたいとの願いからでした。

現在の予算割当制の下で続けていくのが正しいのかという点で、労作部門の開始を含めた九月の報告を変更したのは規則に反するとは誰れも思いつきませんでした。しかし伝道局は別の見解をとっておられるので、私としてはこの問題について議論をしようとは思いません、ただこの問題を進める上で、伝道局の規定に故意に違反したのではないことだけは私に弁明が許されてよいと思います。このことはわれわれ皆に当てはまるものと信じています。

先にあなたの強い要請によって召集されたミッション会議から戻ったところです。その会議の席で、計画中の労働部門の資金を含めて来年度の予算を提出しました。その金額を要求する趣旨を説明し、それに対して一言の反対意見もなく、全員一致で承認されました。

大阪女学校には、ミッションの承認を完全に受けて同様の部門があります。伝道局も承認されていることなのでしょう。この金沢の女学校でも援助の必要な生徒たちにできるだけ多くのお金を得させるようにしています。刺しゅうなどの作業をしていますが、これも全部伝道局の承知の上のことでしょう。そうでないなら、伝道局としては十分に調査をし、なぜこれらの学校でこのような作業をさせなければならぬのか事情がはつきりするまでは譴責されないように願うものです。これらの女学校でしているように、青年たちにできるだけのことをしてやりたいと思い、われわれの前に示された初

めての好機と思われるものに快よく応じたのです。

あなたの返事に対して私は訳もわからずひどいことを書いてしまったに違いありません。

ここにはこのような製品の需要を増すような事業を牛耳っている立場の者は一人もおられません。私は決してそのような要請をしたつもりはありません。私がお願いしたのはミッションハウスの関係者の中に誰れかわれわれの事業について何らかの知識があるいは会社を知っている方がいたら紹介してもらいたいというつもりだったのです。ミッションハウスには歯ブラシを取扱っている会社を知っている人がいるかもしれないから、あるいは会社を知っている人はいなくても大した苦勞をせずにそのような会社を探すことが出来ると思ったからです。歯ブラシを販売したいとの願いに対して、人を紹介して下さり、励ましの言葉をかけて下さっても誰れの負担にもならないだろうと思います。この手紙をお読みになりその程度の援助を今でも得られるものと思っています。私ももっと理解や援助をお願いできたと思うし、きつと快よく与えられたことでしょう。私はそれ以上の積りはなかったし、今はもう何も求めるつもりはありません。期待したり求めたりした私が間違っていたのでしょう。伝道局の力とミッションハウスとの関連でその影響力が大変大きいことは知っています。そしてあなたの方のどちらのどなたかに紹介されれば大いに助かります。私が考えているような良質の歯ブラシを製造することができれば、どんな会社であろうとわれわれのを買って損になることはないだろうと思っています。

聖書の授業に関するあなたの問合せにお答えしましょう。聖書は今まで通り毎日忠実に教えています。この権利が将来認められなくなるというのならば、われわれは納得できないでしょう。しかし私

たちは、有るのが当然と考えている政府の許可が、明確に、無条件には得られないということをお知らせしなければなりません。この六月には新しい計画とカリキュラムを政府に提出し、許可を求めました。東京の中央政府が戦争の問題に忙しく、許可に関する返事をこちらに送ってきかない、との趣旨の解答しか県政府からは得られません。このような事態に進展はありません。しかし私としては早急にもう一度努力をしてみ、よい成果が得られるようにと願っております。何らかの成果がみられたならお知らせしましょう。

私たちの小さな孤児院は、ご推測の通り、そうするのが主の御心であると深く確信して始めたのです。少なくとも現在のところは伝道局にこの仕事を引受けてもらいたいとは考えておりません。私たちの能力を越えて伝道局が望むのでなければ、いかなる時にも援助を求めるつもりはありません。しかし今まで行ってきたことに価値が認められる時には、それを始めて良かったと一層心の中で喜んでおります。私がこの小さな孤児院を鼻にかけて、この地での伝道局の働きの妨げになっていいると思われるといけないので、それだけは申し上げました。もしそうでないのなら、それを止めるように言われる必要はない。十二月二六日

右の文章をおよそ一ヶ月前に書きました。ここで述べた伝道局の処置に対し我慢ならないとられる点があるといけないから、手紙を出すのをためらっていましたが、これから申し上げます。しかし私の書いた文章を読み直してみ、あなたの誤解をまねくことは何もないと思いました。あなたの手紙が届いてからあなたの手紙が禁じている契約について、私たちが大変不幸な立場におかれていることがわかりました。だから私と妻とはその事業のためには当分試験的に、われわれの自費でこの部門を行なうと決心しま

した。ほんの始めたばかりですし、本国で歯ブラシの買手が見つかるためには、この事業のために少しくらいは犠牲を払うことにいたしましょう。

わたしたちがミッシオンハウスの関係する実業界の方にどのような形の援助を求めようとしているのかを理解していただいたなら、私たちの歯ブラシについて知り合いの会社に話してもらい、鼻屑になって下さってもよいという、家庭などで喜ばれそうな歯ブラシの見本を二、三送ってくれませんか。大阪ではアメリカ市場に向けての歯ブラシを何千本と作っています。この事業を知って私たちもやってみようと思いつきました。

やがてニューヨークに届く筈の予算書の中のボーイズスクールの援助の項を、伝道局として十分にご考慮下さるようお願いいたします。教師に関する項目では、歯ブラシ製造を教えるための教師の分百ドルを含めてあります。彼はボーイズ・スクールと孤児院の子供たちに教え、彼らと協力してできる限りの仕事をしております。

手紙を締め括るにあたり、クリスマスの挨拶と新年おめでとうを申し上げたく思います。昨日私たちと支局の全員がクリスマスの食事をしました。とても楽しい時でした。十二才になるジョージが小牛を飼っていて、馬車が引けるように訓練していました。父親の外套を着て、長い髭を生やし、庭を通り抜け玄関まで馬車に乗ってやってきました。それから大きな袋を肩に背負ってドシン、ドシンと客間に入ってきました。その頃までに喚き声と大爆笑でいっぱいになりました。そして袋から小さなおもちゃを取り出しては皆に、その名前を呼びながら「学校をよく頑張ったネ」とか、「手や顔をいつもきれいにしていたので、わしは嬉しいヨ」とか言いながらおかしなおもちゃをプレゼントしました。少々変わったサンタクロースだ

った、それだけだったのですが。二四日の午後、第一教会の日曜学校は子供たちが催しものをしました。そして大成功でした。脱線をお許し下さい。

敬具

トス・シー・ウィン

一八九五年三月十一日  
金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓

二月六日付の手紙、今月八日に受取りました。ちょうどその晩には小松で説教をする約束があつて、出掛けようとしていたところでした。

先の手紙の中の一節について「あなたの強い指示に従って開かれたミッシオン会議からちようど戻ったばかりです」とまで言わなければならなかった私の方の驚きは大きく、かつ私の言葉を全く誤解されているのを大変残念に思っています。何ら説明がないので私の言葉からあなたがどのように理解されたかはわかりませんが、あなたが書かれたことに対し何か当て付けがましい調子を含んでいるように思われたか、または秋か初冬には年次大会を開催しなくてはならない、との書きぶりに、私にはそんなつもりは毛頭なかった、と今すぐにも言わせてほしいのです。

さらにその問題に関して全くそういった気持は有りませんでした。初めはそのような時期にミッション会議に出席するのは、出先機関の者としては少々都合が悪いだろうと思いましたが。しかしこの問題についてのあなたの立場は伝道局を代表して述べておられるのが分るので、われわれには選択の余地がないらしく、われわれの仕事に多少差し障りが有るものの、あなたの提案を承認しなければならぬいでしょう。私は昨年十一月に会議を召集するように最初に発議した一人です。

われわれとしては、この問題に目を向けるようにと力説されるのに異議を唱えるつもりは少しもありませんでした。それどころか規則がどうあろうと主事を通して任命した宣教師を指導するための決定事項を明確に言い表わす権利が本部にはあると思います。本部に對しては私に責任があるのであって、その決定に従わなければならぬという感情で心を傷めることは決してありません。本部の任命の下に留まる限り、できるだけ本部の意向を知って私はそれに忠実に従うつもりです。

それゆえ、もし私の使った言葉に適切でない点があったらお許しを願ひ、あなたの心に残ったかもしれない厭な印象を拭い去ってはいただけませんか。

もうひとつあなたが手紙の中で触れておられる問題に私は大変困っております。というのは上に述べた理由のほかには他意があったとは思えないからです。私がその中心となつて、全く知らないうちに事が進んでしまい、伝道局の方針や決定に反していると思われる事業を始めているかのように思われるのでしょうか。孤児院を開いた時、さらにあの事業を始めた時もそれによってボーイズ・スクールの学生たちが修業中の費用の一部を自分で賄えるように、というつ

もりであつて、本部と協議しなければならぬとか、あるいは知らされてもきつと同意が得られないだろう、などとは誰れも考えてもみなかったのです。

その件につき支局の者に他意はありませんでした。そして確かにミッションの誰れもがそうでした。というのはその問題について、前に述べたことを繰り返しますが、ミッションの承認を求めて予算案を提出した時には一言も反対意見が出されませんでした。ミッションにはそれを本部に提出し正式の議案として可決を待たなければいけない、という者は一人もいなかったのです。それはなぜだったのか。私が思うには、学生のためにそれが非常に望ましいことであつて、別に問題にならないだろうと考えたからでしょう。その目的のため、支局が請求した予算案を支持されたのは、援助の必要のある学生たちに仕事を与えようとの計画をミッションが承認したからだと思います。

あなたのご報告にある本部の処理、つまり宣教師として私たちが経済的に困窮している学生のために行なおうとしている努力を中止しなくてはいけないというご意向であるように理解しました。今私がかいて書いているのは、この問題を再考してほしいというつもりからではないのです。実際この問題についてもしあなたが前の私の手紙を読み返されるなら、伝道局の宣教師に認められている権限内で十分処置しているとの仮定に立っているのがお分かりいただけるでしょう。私はただ私たちのしていることを本部に知らせただけなのです。今やこの仮定が間違っていたのが分かりました。そのことはあなたのこの前の手紙で明らかになりました。私としては伝道局の立場を十分に理解したわけではありませんが、本部の処置を考慮して、この件を論じるつもりはありません。

青年たちを援助したいとの願いからこの事業を行なおうとしている私たちの目的を説明するために、もう一言申し上げたい。私たちは自身は、全体を見渡すのに必要な時間を越えたものを使うつもりも期待もありませんでした。私は宣教師の生活の目的について伝道局とまったく同意見です。

あなたの手紙が届いてから、私はこの作業部門を放棄するか、もしくは全面的に日本人の手に任せてしまうか、そのどちらかしかないとの結論に達しました。そこで私としては後者にするよう取り計らいました。もしこの意向が達せられれば、ミッションとは全く関係のない、日本人による慈善施設になるでしょう。日本人のクリスチャンなら、援助を必要とする学生たちが私たちの学校に通えるように助けをすることでしょう。

孤児院についてもこの人たちの助けによりやがて日本人が引き受けてくれるだろうと思います。現在は私と妻にその維持を負うております。時にはミッションの他の者たちも助けてくれています。それを始めた時には気付きませんでした。私たちの費用を用いて神の御栄えのため事業を行なうのは私たち自身の望みであり、まったく自由にそうしても良いと思ったのです。孤児院のあれこれの問題につきあなたが書かれた手紙を読み、私たちが悲しく辛い思いをしたのをとてもお分りいただけないでしょう。特に今回の手紙はそうでした。あなたはこの施設の将来計画、宣教師側の要する責任、時間の量、宣教師の補助者などがどうなっているのかをお尋ねです。この施設についての私たちの計画に対し、主がそれを備えて下さり、主が望みなら続けてやれるであろうということです。それを行う手段が有る限り続けてやるつもりでした。その必要な手段が尽きる時までが孤児院を続けられたという期限の証拠であると考えます。

しかし本部はこれを誤りと見なし手を引くようにと命じられるなら、宣教師として忠実であるよりも本部の処置を主の導きとして受取る他はないでしょう。

宣教師の補助者の時間は孤児院のためには少しも当てられていません。妻は週一度孤児たちに会っています。彼女は忙しい生活の中の数分を用い、頻繁に訪ねて行って院児たちに姿を見せ、言葉をかけては元気づけています。その施設の責任をもっている夫婦が一組おります。主人の方があらゆる仕事に当たっているか、多くのことで妻と私に相談をします。そのために使う時間はあまり多くないのがお分かりでしょう。しかしあのように妻の心に大きな喜びを与えてくれる仕事を彼女がしたことは一度もありませんでした。私にはどうしてこの類の事業が宣教師に相応しい仕事と考えられないのかが分りません。他の地方で孤児院の事業に携わった宣教師の経験談を読んだことがあります。そこから、われわれの時間の一部と、僅かばかりのわれわれの財産の大部分をこのような目的に使用するのに勝る道は他にないだろうと考えたのです。

あなたのおっしゃることにに対し妻が報告書を書いたのは、ミッションの中の数人から特に要請があったので、あなた宛になっています。しかしそれに関連して、私としてはそれがミッションの席で読まれた報告書の一部ではない、という気はありません。金沢の孤児院に関して伝道局が更にもうようなことを言ってくるか、多少心配をしながら待つことにいたします。

一月一日発行の伝道局回報が前の郵便物と一緒に届きました。それを読み、本部と主事が当面の財政の見通しについて心を痛めているのを知って悲しんでおります。願わくば年度末にあたり、神の民が惜しみなく捧げ、必要が満たされますように。負債の重い不安か

ら解放されますように。

娘のメアリーの分として一年間ずっと年百五十ドルの割でお金を引出しました。予算見積りを作成した時にはこの一年間娘と一緒に暮らすことは考えていませんでした。余分の五十ドルを受取る資格がないと思いますので、会計の方に戻します。またそれと一緒に他に五十ドルは僅かですが、私たちの寄付です。もっと多ければ良いのですけれど。

終りに臨んで私個人宛のあなたの手紙に書かれているご親切なお言葉、有難とうございます。私はそのお言葉に全く値しない者ですが、それでも。

私は今までも、そして今もあなたのことを最も優れた人物として尊敬しています。そして本部の反対議決を私に伝えるのはどんなにか厭なことだろうと、よく分かっております。

敬具

トス・シー・ウイン

追伸 同封の為替をダレス氏にお渡し下さい。お手数をかけて申訳ありません。

ティ・シー・ウイン

拝啓

孤児院の問題についてわたくしはとても関心があるものですから、主人の手紙に添え二、三述べさせていただきます。

この件につき特にお求めがあったので提出いたしました報書書の中で、この事業を始めた動機の隠れた理由のひとつは、わたくしたちがイエスキリストのために尽くせるなら喜んで財産をも捧げるものである、と身をもつて日本人クリスチャンに証しをするためでした。

したがってわたくしたちは人々に知られないように慈善を施してきましたので、そのため多くのクリスチャンたちはこの事業がすべてミッションの費用で行なわれていると考え、わたくしたち自身が捧げたものは、献金をするように皆さんに勧めたものの中には入っていないと考えたのです。

今では彼らの考えが変わり、友人たちみなも孤児院の働きに深い感銘を受けて、一年前には乞食であった者なのに今ではすばらしく生活が向上したのを見て涙を流す人たちがさえます。わたくしたちはいつも孤児院を、決して私的な養育院にしないようにとできるだけ心掛けてきました。ただしクリスチャンたちが徐々に事業を助けるようになるか、あるいはわたくしたちの工場から援助の道が開かれるようになれば話は別ですが。

ミッションの費用で歯ブラシ作りの技術を教える人を雇い入れるように提案したのは良くありませんでしたが、その人物が孤児院でも働けるので、学生が余分の費用を払わずに済みます。従って製造作

一八九五年三月十二日  
加賀金沢にて



トマス・ウィン書簡 その三

業を組み合わせることは反対がある筈はないと考えたのです。

主人が申しましたように、本部が孤児院をお認め下さらないのを知ってわたくしたちは失望落胆しております。

長い間この種の施設を開かなくてはと痛感しておりました。優れた宣教師たちの記録を読み、ペイトンやテイラーが孤児院を最も重要な伝道のひとつと考えていたのが分ります。もはやこれ以上必要な資金を用意するのに、多少の犠牲を払うのもためらってはおりません。

申し上げました方がよいと思いますが、昨年わたくしは日本人の助けを借りて『ジョン・ペイトンの生涯』を日本語に翻訳いたしました。しかしこれも孤児院の仕事と同様余分にした仕事でして、宣教師本来の仕事に用いなくてはならない時間を無駄使いましたではありません。わたくしは宣教師としてこれに優る真の働きの場をこれまで持ったことがなかった、と心から申し上げてよいと存じます。そして熱心に耳を傾けようとする人たちに聖書の教えを語る、これ以上に嬉しいことは他にございません。

あなたが「宣教師は助けを必要としている人々にクリスチャンとしての手を差し伸べるのを禁じられていないが、それがひとたび組織として力を尽くそうとすると、問題は別であろう」と書かれた真意が理解できません。通りかかった乞食に、時としてその場限りの小さな援助を施す特権がわたくしたちにあるが、それがいったん明確な形をとって継続して善をなさんとしたたん、それは禁止されなければならぬなどと、そんな筈はないでしょう。

この事業は宣教師たちの手で始められたが、伝道局としてはわたくしたちの自由になる僅かな資産がなかったなら引受けることができなかつたでしょう。だからこの孤児院はまったく他と切り離され

たことのように考えられているみたいなのです。

これらの幼い八人の飢えたる魂のため本部として孤児院を続けて下さるよう、心からお願ひ申し上げます。

もし閉鎖ということになれば、わたくしたちはまたもや、やはり長続きしなかつた、と悪口を言つては嘲る人々の前に大変辛い立場に立たされましよう。しかしあなたはわたくしたちよりも広い立場でこの事業をご覧になれるにちがいありませんから、もし反対の決議がなされなければならないのなら、それに従えるようにと祈っております。

かしこ

リラ・シー・ウィン

一八九五年九月十四日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピーあて

ギレスピー殿

久しく便りをしなかつたように思われます。しかし取立ててご報告することがなかつたものですからご無沙汰をいたしました。

この国のさまざまな地方で、また多少はこの辺りでもコレラが流行しているのです、今年の夏はじつと家に籠もっていました。普通なら学校の休みを利用して金沢から離れた町へ行くことができる時期だつたのですが、家を出たのは一回きりでした。

コレラについて私のみたところでは、家にいて自分の体と家のまわりに気をつけていれば病気に罹る恐れはほとんどないと確信しています。がこれに反して日本を旅行する場合、よい食物ときれいな飲料水が得られない地方を旅行する時には極めて危険です。この恐ろしい病気に罹った欧米人は大抵の場合、旅行中かまたは旅行を終えた直後に発病しているのです。

先頃いただいた手紙によるとジョン氏は今頃は日本に向う途中のヴァンクーヴァーあたりかと思われます。ジョン氏に関してひとつだけ悩みの種は、多くの地方で彼を欲しがっているものですからどこへ配置したらよいか決めるのが難しいのです。彼の身内の方々の多くが一時は私の父の教会員でした。ジョン氏は信仰深い家系の出です。

あなたの指示通り、あの自給について書かれた手紙を翻訳させ、騰写刷り本としてクリスチャンたちに配布しました。一家に一冊が行き渡るように努めました。その他に自費でトラクトの翻訳を二つ出版しました。アッセンブリー委員会が出した献金論、すなわち「キリスト者の会計管理とその報酬」でした。私はまた、少なくとも収入の十分の一を主に捧げるように人に勧め、また力説をしてきました。私は私の知識のすべてを用いて、この問題に関する聖書の教えを皆に知らせようと努めてきました。このような努力の成果が或る人々の間にみられるので喜んでいます。一方他の人にとっては私のしたことが無駄のように思われました。

わが男子校はかなりの学生数をもって二日前から始まりました。将来への見通しは極めて明るいものがあります。小学校も同様の報告をしています。ミス・ネイラーとミス・ショールはまだ休暇先の軽井沢から戻っておりません。ミス・ネイラーが先週ちようど帰宅し

ようとしていた時に病気に罹ったために女学校の秋の学期の開始が二、三日遅れています。彼女の容体は大分良くなっていると聞いています。恐らくたいしたことはないでしょう。そうは聞いていませんから。

ウィン夫人からも呉々もよろしくと申しております。われわれは暑い季節の中にも健康で元気に過ごせそうです。そのことと合わせて、主の御名によって益となるようにとあらゆる時を感謝しております。

敬具

トス・シー・ウィン

一八九五年十二月十三日

金沢にて

ニューヨーク市五番街一五六番地

神学博士ジョン・ギレスピーあて

拝啓ギレスピー殿

十一月九日から十五日までの間、京都で開催された宣教師年次大会から戻った後のご報告をしております。喜ばしい集いになり、明らかに出席者全員がおの心のうちに聖霊を受け、その働きに自分たちの責任を委ねたいとの願がみられました。しかしあなたの所へ送った会議の議事録によって私が書くよりもっとたくさん情報を得られることでしょう。わが家からは全員が行きました。京都以外から参加した唯一の宣教師家族でした。

金沢の宣教師団について議決された事項はお分かりでしょう。ヘイワース氏一家は大阪に転属、ジョンズ氏とミス・パーマーは金沢に配属。ミス・トムソンの日本到着が閉会間際、まだ散会されないうちに電報で知らされたので、投票によりただちに大阪の女学校に配属が決まりました。ジョンソン、ミス・バビット、ミス・トムソンといったこの秋に派遣される若い方々は前途有望な宣教師たちだと思います。私個人としても、ミッシオン本部ならびに彼らを送って下さった教会に感謝したい気持ちです。

ヘイワース氏の移動に伴なって私の責任が増しましたが、大阪のためには他に方法がないと分かったので私は変更賛成投票しました。大方その任務には私が求められるのであろうと思つたのですが、私がすでに長い期間いる場所にこのまま留まるのが一番よいのだろうと考えるようになったのです。

新たに人を求めるミッシオンの決議に気付かれたことでしょう。マーレー氏の名前が再度伝道局の注意をひきました。彼に関してはミッシオンとして彼にこの金沢の学校に来てほしいと述べていると思います。若者を獲得するために、また若者を相手とする担当を彼にさせようというのがミッシオンのねらいです。この問題の提案とミッシオンの願いに同意なさるならば、伝道局のいつているような、もつと直接伝道者養成の機関に学校の性格が変更されることになるでしょう。マーレー氏を金沢に招いて学校の性格を変えようというのはもともと私の考えついたものでした。ミッシオンが決議したのは私の提案と動議に基づいたからです。この金沢ボーイズ・スクールについてなし得る最も賢明なことは、そして私が伝道局に対しぜひ進めていただきたい点は、マーレー氏のミッシオンの中の任務を早急にご承認願いたいということです。

本来なら来年春が私の休暇の時期です。しかし金沢の諸々の事情のほかに子供たちをできるだけ長く手元におきたいという理由などで、帰国をもう一年かそれ以上延期することに決めました。それまでにはマーレー氏とジョンズ氏とがわれわれのここでの仕事を十分にやってゆけるようになるでしょう。

ジョンズ氏についてはもう一言いわせてもらいたいです。彼はあのようによい人柄ですから彼を迎えるのは楽しみです。かならずや彼は日本において極めて有用な人物になっていくことでしょう。集会の場で彼が語り、祈るのを聞きたいと思います。(毎週ミッシオンの集会を開いています)。

京都から戻った直後、富山に旅行をしました。秋に買った自転車に乗って行つたのです。富山行きは大変楽しく、あの地に駐在している日本人伝道師の働きを見て嬉しく思いました。長いこと彼の地でコレラが猛威をふるっていたために行くことができなかったのです。そして現在は雪がたくさんあって、旅行はまったくできません。心からクリスマスと新年のご挨拶を申し上げます。

トス・シー・ウィン

(一八九六年一月十日、伝道局受信)

ギレスピー博士あて

宣教師生活の社会的側面について

どのような状況のもとにあろうとも人間は社会的生物であるから当然宣教師の生活にも社会的領域があります。わたくしたちの社会

的任務は社会一般の男女のそれとは大分趣きを異にしています。わたくしたちはこの世の社交にはほとんど関心がありませんが、真に有能な宣教師というのなら授かっている社交の才能を養い、そのすべてを用いなくてはならないでしょう。

よく言われることですが、わたくしたちはただ単にキリスト教を説くだけでは不十分で、人々の前で信仰に生き、実践するためにやってくる、そしてこのことは人々との交わりを通して実践されなければならぬのです。日々日本人に接触する中で、わたくしたちは教えの真理を身をもって示す実物教育によらなくてはならないのです。わたくしたちは、いわばすべての人に読まれ、知られる生きた使徒書簡なのです。このためにわたくしたちの働きの社会的側面が真剣な様相を帯びることになるのです。

宣教師の社会的任務はまず自分たちの家庭と家族から始めなければなりません。日本人は外国人の家庭生活にひとしを好奇の目を向けていますから、わたくしたちが思いやりをもち、喜びの生活をしていると彼らの目に映るならそれだけ一層好ましい印象を与えるでしょう。彼らの家庭ではそのような要素がしばしば欠けることがあるのですからなおさらのことです。

家庭における社交性を養うのは決して困難なことではないが、時として仕事に一生懸命になつてゐるか、あるいはそのことに気を揉んでいて食事の時にも、ただ「ああ」とか「うん」とかの受け答えしかせず黙々と食べるのが身についてしまつてゐます。そうするといつも見てゐる使用人の目には家族が喧嘩でもしているように映るのです。大変惨めなことです。

わが家の子供たちは他の子供たちとお付き合ひしないのです。子供は悪い影響を受け易いので、どうしてもわたくしたちが子供たち

のために多くの時間をあてる必要があります。このことは母親だけに当てはまるのでなく、父親も一緒に責任をもたなくてはなりません。父親は子供たちとふざけ回るのがよい運動になるとわかり、テニスや輪廻しゲームの代わりに、時には存分に楽しむこともできるのです。

宣教師の家族の母親は子供たちに自分のもつ全部の時間と力とを求められてゐるよう感じられることがよくあります。すると宣教師活動の妨げになつて、何ひとつ取り掛かれないのです。確かにある場合にはこの通りなのですが、外での仕事がどのくらいできるのかは努力してみなければ誰れにも分かりません。家庭内での母親の社会的影響力は、積極的に宣教師活動に加わろうとする時大いに増すことになります。さらに婦人たちの集会に出席すると大いに気分転換となります。バイブル・クラスも一種のレクリエーションになるので、そこからの帰りは肉体的にも精神的にも一層健やかな気分になつて家族のもとへ戻るようになります。

直接宣教師活動の責任を負う時はその影響は子供たちの上にあらわれて大いに益があります。子供たちは心を込めて協力し、宣教の仕事に大変関心を持つようになります。特に集会で起こつたちょっとした面白い出来事を語つて聞かせるように心がけるならばそうです。わたくしたちの使用人たちに対する態度については考えてみる値打ちがあります。

多くの時間を当て彼らに接するとしたら、特にそのうちの誰れか一人のみを信頼するのは恐らく賢明でないでしょう。しかし真に彼らの福利に関心を示すなら、容易に彼らの信頼を勝ち得て、あらゆる点で大いに好都合となります。確かにわたくしたちのやり方は大変奇妙で、しばしば彼らに理解しがたく映るので、わたくしたちの

動機が悪い感じを与えないように十分気をつけなければならぬと思われまゝ。

どのような時にも、わたくしたちの行動が彼らの誤解をうける危険があるならば、特に家庭のしつけについては何らかの説明をしてみるだけの価値があります。

使用人たちの社会的性向を心に留めておかなくてはなりません。特に何か教えと相反する行為をわたくしたちの中に見るならばそうです。実際この国では家の中で密に行われることでも屋根の上から知られてしまうのです。数家族の宣教師が同じ支局に住んでおりますので、遊ばないで勉強ばかりしていると子供は駄目になってしまふ、というあの考えに基づいて、時には一緒に集まって心から騒いだりすることもよくあります。

外国人だけの祈禱会のほかに、文学や音楽会の夕べもまた熱心に推奨されています。こうした社交的な集りによって、わたくしたちの心がひとつとされ結び合わされて相互理解がより深まるのです。

田舎に旅行したり、沿岸を航行する船の旅をする時には、人々に接してキリストの精神を示せるかどうか、わたくしたちの能力がきびしく試められます。乗客が小さな箱の中の鰯のように詰め込まれ、汚ない小さな盥のような船においては溢れるばかりの伝道精神がなくても許されてよいと思います。周囲の状況によっては何ら心の楽しい状態にならないのです。やつとの思いでうとうとと眠ったと思つたら、床板の上の隣りの列の男があなたの枕の下に足を入れ暖めているのに気付いて目が覚めてしまふとすれば、その時も伝道をする心境になり得ません。しかしそのような腹立たしい状況のものでさえ、自分本位に考えていらぬ癩癩を起こしたりするならば、せつかくわたくしたちの良い影響を与えようとしてもきつと割

引きになつてしまふということを忘れてはならないのです。ある婦人宣教師と同じ船に乗り合わせた日本人のことを知っています。お互いに前には一度も会つたことのない間柄でしたが彼女が宣教師であると聞いてその日本人は、一体キリスト教というのは、その教えに従つた生き方をするならばどのようなに違つてくるものなのか見届けてやろうと決心しました。大変幸いなことにこの若い婦人はその観察にいやいやながらもよく耐えました。彼女は旅の疲れと不愉快さにもかかわらず、快活に振舞つて我慢をし、よその人にも思いやりのある配慮を見せたのです。するとその日本人観察者の称賛を勝ち得て、記憶に間違いがなければその男は感銘を受け後に教えの真理を学び彼自身クリスチャンとなりました。

もうひとつの例は、ある時わたくしたちボードの宣教師が混み合つた列車に乗つておりまして、日本人の婦人に席を譲つてあげたのです。さもないとその人はずっと立つていなければならなかつたのです。この小さい親切な行いが他の乗客にどのような影響を与えたか見てみると、やがて立派な身なりをした男性がやってきてその宣教師に、どうぞ私の席に掛けて下さい、と言つたというのです。

日本人が訪ねてくると、時として飽きあきするほど長居をすることもありまゝ。片付けたいと思つてゐる仕事を止めてしまふには大変寛大な気持が必要です。仕事を中断しておいて、暇な時間が限りなくあるらしい訪問客を接待するのです。事情によつては必ずしも彼らの好きなだけの時間を付き合う必要はありません。ただし談話中に思いやりと親切を心がければ埋め合わせがつくのです。

訪問者の長居に悩まされそうな恐れがあればあるほど、より熱心に客にキリストのことを教えることになり、もし上手に感化を与えられれば、過ぎた時間は決して勿体なかつたとは思へません。

日本人を訪問するのに多くの時間を使いますが、それに対する報いが十分あります。午後の半日だけでも大勢の人を気楽に訪ねることが出来ます。そのような時にはちよつと立寄つて玄関に腰かけるだけにします。こうすれば靴を脱がなくてもすみまし、また家の者も茶菓を出さなくてもよいのです。

もし信徒の誰れかが数週間礼拝を欠席しているなら、訪ねていつてその理由を尋ねるのによい機会です。もし病氣のためなら、時には気分を良くさせるために小さなパンかアイスクリームを持つて参ります。アイスクリーム一皿が日本人にとつてどんな感動を呼び起こすか、本当に驚くほどです。アイスクリームをあげて悪かったことは一度もありません。今ではわたくしたちが病人のためにアイスクリームを作るといふ評判が広く立ち、まったく見ず知らずの人から頼まれることがあります。アイスクリームでもつてほとんどどの家でも快く迎え入れられ、このようにして知り合ひの輪が広がり、わたくしたちの影響も広がっていくものと思います。困っている人たちにいろいろ小さな心尽しをすることがあり、それが大変感謝されています。

病室ではオルゴールが大いに喜ばれました。以前に県の高官であつた方の未亡人が先週訪ねてこられ、ご主人が病氣の最後の時期にオルゴールが一番の慰めであつた、と涙ながらに語つてくれました。挿絵入り新聞の合綴本も同じように伝道の役に立ちます。危篤状態の病人を楽にしてあげられるように羽根の枕があれば、それを、ご自身では枕するところのなかつた方の名によつて差上げます。その小さな行いが報いを受けないことはない、とのお約束を信じて、わたくしたちの持ち物でもつて人々の心を得るため用いるのに立派すぎということはないと考えている証しをさせていただきます。わたし

くしたちの為すべき礼拝は自分たち自身を生きた供え物として捧げるという時、当然わたくしたちの持ち物もその一部に入れさせていただきます。

日本人の客を持て成すためにはたくさんのお金と時間を要するとしてもしばしばですが、持て成される者にも、持て成す方にとつても本当に喜びが与えられます。それは主がお示し下さつた教えと一致していると思います。貧しい人や跛や目の見えぬ者を訪れるようにとのお命令にお答える機会がたくさんございます。それによりあの人たちがどんなにか豊かな食卓を楽しむことでしょう。宣教師の目的のために、最も効果的に人々の心を動かし財布を開かせる方法は教会の交わりの中で愛餐を通してというのが本國において真実なら、それと同じようにここ日本でも真意を知られないようにして、おいしい食事を出すことがあります。それはおそらく成功するでしょう。

食事に招いた後訪問して、不機嫌になつたり意固地になつたりする日本人を見たことがあります。彼が不安に思っている点を更に進めようとするのと反対に会うことがあるかもしれないのです。先ず美味しいご馳走を出すようにお勧めします。さらに何らかの理由であなたに悪意をいだく者がおれば、彼の氣持は暖かいスープ一杯のお代わりで驚くほど和らげられるでしょう。

体験をしたことを申し上げました。暖かいスープをもつて楽しくさせるのは「惡に報いるのに徳をもつて相手を恥じ入らせる」の通りです。役人や名の知れた人々をわが家の夕食に招くことがよくあります。その人たちの好意を得ることにより人々の心に影響を与えたいと思うからです。たいいていこの階級の人々がわたくしたちに接するようになると外国人に対する偏見をすててキリスト教を受入れると

## トマス・ウィン書簡 その三

ころまではいかなくとも、大変親しみを感ずるようになります。おそらくは彼らの多くはわたくしたちの想像以上に教えの真理を信じているのでしょう。彼らを親切に持て成しますと、あらゆる水を用いて種まく機会が与えられます。

日本人とのお付き合いをするうえで欠かすことのできないのは彼らに真実の関心をいさぐことと、あの人たちのためになるように心から願うことです。この気持がなかったなら、たとえわたくしたちの日本語の発音が完全であつたとしても感化を与えることはできないでしょう。キリストを愛するよう教えたいと思うなら、まずわたくしたちが日本人を愛している、と感じさせるように努めなくてはなりません。

終りにのぞみ、わたくしたちに与えられた聖パウロのことばを思い出させて下さい。「しかし善をなすこと、心を通い合わせることを忘れてはならない。というのはそのような犠牲を神は喜ばれるのだから」

ミセズ・ティ・シー・ウィン

金沢にて

一八九七年三月三日

金沢にて

ニューヨーク市五番街一五六番地

神学博士 ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓 金沢支局では二、三日前の晩に、非公式に集まり、祈りと協議の会を持ちました。数ヶ月前からそのような会を始めようと考えていて、二ヶ月に一度開くことにしたのです。その目的は支局内のいくつかの部門の間の理解を一層深めるために、また助言や意見を出してお互に助け合えるように、というのが目的です。

第一回の会合の議事録の概略を送るように私が依頼されました。そのために私が書き留めたものをもとにどんなことが発言されたか、また行なわれたかを簡単にお知らせしようと思います。ウィン氏が議長を務め、その晩の発言の口火を切ったのでした。彼はボーイズ・スクールの現状について語りました。ミッションとしては学校の性格を変え、完全に英語学校としてしまうという動議を可決したので、今はその移行期にあること、実験的な試みが成功するかどうかについては将来明らかになる展開を待つこと、ミッションの決議が正しかった理由として、現在の広くて便利な校舎の建築と時を同じくして、それ以来学校が戦い続けてきた一連の困難な問題に出会い始めた、とウィン氏が述べました。校舎が建った時、学校は数年のうちに隆盛になると思われる根拠が十分にありました。しかし国家の姿勢がすっかり変わってしまった、わが校を維持していくのが極めて困難になつてきました。そのうえ政府の経営する学校が整備され、改善されていく中で以前は私たちの学校に来たような学生層がそちらに奪われ、今では概して能力の低い学生を教えることで満足しなけ

ればならなくなっています。本校における聖書の授業が困難になっている事例として、先日朝このようなことがありました。あるクラスのほとんど全員が学校の貸与している聖書をもってきて、もう聖書はいらない、といいながら返えそうとするのです。その行動の意味するところは、もうこれ以上聖書の授業に出席しないつもりである、というのです。私は日本人校長にそのクラスの生徒たちが行なったことに注意を促しチャペルに行きました。讃美歌と祈禱が済んだ後に校長が生徒を残し、彼は今までに私の聞いた日本人の話の中で一番徹底した立派な話をしました。話を済ませてから聖書を生徒たちの手に戻しますと彼らは何も言わずに受取りました。しかし大多数の者は、毎日教室やチャペルで考えさせられる真理に対し絶えず根深い反感を示しています。

ウィン師はまた、その頃金沢の二つの教会の長老間に起こった紛争が真最中であることも語りました。その困難な問題を解決するのに何の助けもできないけれども、不思議なほど心の平安を保つに至ったこと、また祈りによって溢れるばかりの聖霊をいただいて、万事円満に解決するよう確信するに至った、と語りました。どのようにしてその紛争が解決されるのか、とても考えも及びませんが彼の心はその確信に満ちている、というのです。彼は会議に提出する事項として福井のフルトン氏の手紙を読んで締めくくりました。その手紙の中で、祈りの素晴らしさを体験したことを述べ、フルトン氏のために祈ってくれるようにジョンズ氏に求めています。(手紙の内容については、フルトン氏から直接便りがあることでしょうかからここでは述べません)。

ミス・パーマは彼女がやっている日曜学校の生徒が最近大変増えた、と報告しました。二、三週間前に彼女とこの問題を話し合った

時、日曜学校を開いている家が手狭なので止めてしまうほかはないとの話でした。しかし現在は大いに励ましを受けて、続けて行なっています。彼女は確かに女学校の生徒たちの間に聖霊が働いているとも述べました。二人の生徒の場合は特にそれが顕著です。一人はすでに受洗グループに入っています。信仰をもっていない娘たちの中の二人が明らかにクリスチャンの生徒たちの影響を受けています。クリスチャンの生徒たちは特に未信者のために祈っているようです。ジョンズ氏は英語のバイブル・クラスの話をしました。第一教会の方のクラスには十名程度の青年が出席をしています。土曜日には自分の部屋で二回クラスを開いています。出席者は真理に対し興味を示しています。一人の青年は鋭い質問をし、深く考えているようであります。このクラスの出席者は三人から五人であります。他のクラスも数は似たようなものです。ジョンズ氏が金沢に赴任したすぐ後に二人の青年が聖書の勉強を始めました。彼らは深く考えているようで、英語を学ぶことよりも聖書を理解したいと望んでいるようです。

ネイラー夫人は学校の寄宿生のためを思って数年来続けてきた丘の上の日曜学校を今年は教えていません。生徒たちだけが建物の中に取り残されていて、それは聖日の朝にふさわしい時間の過ごし方でないと感じているのです。しかしネイラー夫人は前述の日曜学校と連絡を取り合って、日曜学校で教えるための訓練を十分に受けた生徒たちが課業の準備をするのを助けているのです。一人の生徒の名前があげられ、その生徒のために祈ってほしいと言われました。その生徒は聖書の真理をよく理解しているようではあるが、聖霊に逆らい苦境に陥り悲観をしているのです。しかしクリスチャンたちがこの姉妹のために続けて祈ろうとの決意を示しました。学校には



## トマス・ウィン書簡 その三

三二名の生徒がいます。そのうち十一名が信仰をもっています。

生徒の中に、仏教の僧侶の娘で躰を受けてない我儘娘が一人います。彼女は聖書の授業に興味を示さない。ただの無関心なだけであって反対する態度は見せません。学校全体としては本当に神の言葉を学ぶことに関心が高まっています。最近キリスト教奨励会の時間に変更があつて、時間割の中に置かれるようになり、今では全員出席しています。ティラー夫人は、聖日に市内の数ヶ所で開かれる日曜学校に出掛ける生徒たちのために、木曜日に教師会をもっています。金沢以外の出身の生徒は富山から三名、福井から二名、津幡一名、鶴来一名、大聖寺から二名、寺井一名、はしけじ村〔不明〕からの一名です。

ウィン夫人は、婦人たちのための集会に最近いつそう希望がもてるようになっていて、と語りました。十五人も出席者があつたことがしばしばです。集会は二つあつて、ひとつは木曜日の午後自宅の間を使い、もうひとつは火曜日の午後教会で開いています。週日には三回、青年たちのためにバイブル・クラスを教えています。彼女の祈りの名簿には二六名の名前が記されています。このうち十二名は多かれ少なかれ個人的に救いについて幾分関心を示しています。彼女が長い間祈っていた二人が最近受洗をしました。孤児院の子供が一人最近院を逃げ出しました。もう一人大変貧しい家の男の子が申込みをする子供はすべてそうするように、わが家の妻のところに連れてこられました。この子供はわが家の戸口を出ると下駄を脱ぎ、生まれて初めてまことに恐ろしいものを見た、と言いながら全速力で家族のもとに逃げ帰りました。案山子だと思われるといけないので、彼女はその子供においしい食物を与えその子や子供たち全員に、彼女のことを恐ろしがらなくてもよいと分かせようと思いました。

ミス・ポーターの昼間のバイブル・クラスは彼女にとって大きな励みになっています。二人の娘たちと教師二人が特に興味を示すからです。この二人の娘たちはこの春の卒業生です。二人とも長いことクリスチャンであるかのように見えました。そのように話す二人は、キリストを信じていると言いました。二人はミス・ポーターに去年の夏、罪の確信と祈りによつてもたらされた救いの平安の体験を語りました。彼女らはクリスチャン・ホームの出身で、一人は九年、もう一人は七年間この学校に通っています。小学校の中に開いている日曜学校は過去数年間思わしくないのですが、最近は三十名から七三名に数が増えました。子供たちは新しい生徒を連れてくるほど熱意を示します。県の師範学校の青年が数人週二回のバイブル・クラスにやってきました。彼らの関心は本物であるらしく、他の者たちとは異なつて罪の意識が見られます。朝早く起きて聖書を勉強するのだそうです。できるだけ早くクリスチャンになりたいと願っています。いつのことでしょうか。彼らは子供たちの書いた作文を付属の小学校の子供たちに与え、救い主について教えようとしているのです。ミス・ポーターは一生懸命可哀相な中風の患者に教えるを説いています。また近所の八十才になる老人にも教えるをしています。彼女は自宅で月一回婦人のための伝道会を開き、十一名の出席があります。彼女たちの献金は先日三三銭でした。

ミス・セトルマイヤーは近頃第二教会の日曜学校で日本語でもつて教えるをしていて、それを特別の恵みと感じている、と語りました。この奉仕はむろん日常勤務をしたうえでのこと、金沢に来てからずっと続けているのです。その他に英語のバイブル・クラスも教えています。ブローカー氏は最近第二教会で英語のバイブル・クラスを引受け出席者は平均五名ほどです。青年たちは英語の勉強に対して

でなく、教えそのものに関心をもっているようです。

私は以上の報告の中に、ミス・パーマが近頃日本語で教えているクラスの経験について触れるのを忘れました。彼女が言うには「わたくしは話の途中で中断せざるを得なかったのです。そして生徒たち、次は何と言えよのかと尋ねました。二度とこのようなめに会いたくないと私が感じたのをご想像いただけることでしょう。しかしこれからそれを申し上げます。」するといっせいに「それがどんな気分かよく分かります」と声がしたのです。

会はブロー氏の祈りで閉じました。

敬具

トス・シー・ウィン

追伸 『本国と海外の教会』の写しを受取り嬉しく思います。ま

もなく私は出発することになっていたので今後はジョンズ氏宛に手紙を書かれたらよいでしょう。近頃きたものの住所が長老派金沢ミッションとなつてゐるのがあつて、あちこちさ迷つて手元に届きました。

一八九七年五月十九日  
金沢にて

ニューヨーク市五番街一五六番地  
神学博士ジュノー・ギレスピーあて

拝啓

前便でもつて歳出予算案を受け取りました。詳しく調査検討をしています。伝道本部が認めた金額では、現在までわれわれが行なってきたような事業を続けるのはまったく不可能です。

僅かながら予算を切り詰めることができました。またこの金沢にある二つの教会が伝道局から完全に独立しなくてはならないと、強い勧告をしています。それを成し遂げる方法はただ一つしかありません。つまり二つの教会が合併して、一人の牧師を招聘することです。この案を皆に示し、皆も私の勧めに従つて行ふものと思います。私たちの休暇についての変更を知らせる手紙がお手元に届いたでしょうか。六月十八日に横浜を立つてアメリカに向う筈です。

この変更のおかげで私の給与、約二百五十ドルが節約になります。お尋ねしたいのは、本部はその浮いた金額を今年度の支局での使用にお認め下さるかという点です。予算書が届いた一便前の本部からの回報によると、今年度は「新築」に含まれる項目でも特別に自由に使用したり、お金の転用が認められるように書いてありますが、この点から私は財政難のわれわれに今年度支出分の全額の使用を認めて下さるよう本部に強く申し上げたいのです。

先の二百五十ドルを当てにしても、なお約百ドルの不足が見込まれます。しかし事業があまりひどい損害を受けるくらいなら、いつそわれわれ宣教師がそれだけのお金の不足を補いましょう。私の知

トマス・ウィン書簡 その三

っている宣教師は皆いつでも十分の一を捧げています。あるいはそれよりも多いこともしばしばです。それ以外の責任を負っている者もありますし、それも一人の人間がしていることなのですから、上述の今年度不足分を補うよう約束するのが難しくなります。

できるだけ早急にジョンズ氏宛に手紙を書いて、本部から届いた予算を使用してよいか、または浮いた二百五十ドルは本部に帰属する金なのか知らせて下さいませんか。私たちがこれが最良の道と判断したのに従い、しかも本部からは何の条件も付けずに許可が得られなければならないように思われます。それが、苦しい今年度を乗切る唯一の方法と思われるのです。上述の件についてはアメリカに到着してからお知らせしたいと思っています。アメリカでの住所は次の通りです。

イリノイ州ゲールズバーグ市Fローゼイ通五〇一番地です。

敬具

トス・シー・ウィン

九七年七月二三日

イリノイ州ゲールズバーグ市

Fローゼイ通五〇一番地

ニューヨーク市五番街一五六番地

神学博士ジョン・ギレスピー牧師あて

拝啓 今朝この町での寓居に無事到着しました、とご報告ができて嬉しいのです。長旅をすれば疲れるのは当たり前ですが、その他の点では皆すこぶる元気です。

娘は元気にしております。再会を喜んだのは言うまでもありません。彼女はこうえもなく健康で、大学では実りある一年を終えました。本国にいる間に外国伝道のためにわれわれに出来るいかなる方法においてもお役に立ちたいと思います。私が日本を出発する時バラ氏に渡されたお金を半分しか使わなかったので、会計係ハロッド氏のために勘定の明細を同封いたします。私たちはオレゴン州ポートランド経由で参りました。ポートランドまでの切符はサンフランシスコまでの切符に支払ったのと同様にして手に入れました。ポートランドからこの地までの途中、余分にかかった費用は自分で負担しました。ホルト氏が大変安い料金のを手に入れてくれました。国内は今までで一番安く旅行することができました。船はちょうど十二才のジュリアと六才のマールの分を支払わなければなりません。ポートランドの会社では、一番下の子は無料に、ジュリアの分は半額にしてくれました。こういう訳で費用が浮いて、旅の最後に列車を乗り換えるまでは何事もなく進みました。ゲールズバーグから十二マイルの場所なのにあの小さな子の十二マイルの乗車賃が二四セントかかったのです。説明はそれくらいにしましょう。

この国にいる間に頻繁に連絡し合い、お会いできたら嬉しいです。日本を立つ前の手紙で、私が予定より早くアメリカに帰ったために給料分の節約ができたお金を、予算の概算を考えていた時期に、いや一八九七年一八八八年予算作成の頃です、金沢支局としての使用が認められるかどうか、あなたあてに手紙を書きました。本部としての返事がどうなったのかお知らせ下さいますか。

妻からもよろしく申し上げてほしい、と言っています。

敬具

トス・シー・ワイン

六月十一日

イリノイ州ゲールズバーグ市

北セミナリー通六三〇番地

拝啓スベア殿

本日の午後日本から手紙が届き、気にかかっていた二つのこと、安心いたしました。ひとつはジョンズ氏がオランダ伝道会に転籍を申し出たこと、もうひとつは金沢の私たちの土地を手離すことです。ジョンズ氏はミッシオンに申し出てオランダ伝道会への彼の転籍を認めてくれるように伝道本部へ手紙を書いてほしいと依頼されました。ミッシオンはそれを拒否したので彼はそれ以上何もせず、そのまま止まろうと決心しました。

県としては丘の上の私たちの土地を買い取ることも接収することもしないと決定しました。このことを知って喜んでいます。男子校

とテイラー住宅に関しては、それらをアメリカ聖公会に売却したらよいと思っています。これは伝道局が学校の援助はしないのだろうとの推測に基づいています。また聖公会が買うといえば、の話ですが、現在はテイラー住宅は聖公会に貸している、とジョンズ氏が報告してきました。町の中には他にも小さな住宅があつて、これはカナダ・メソジスト・ミッシオンに貸してあります。もしそれを買うように勧めてよければ、売ったほうがよいでしょう。テイラー住宅は二、五〇〇ドルの値打ちがあります。後に述べた小さな住宅は三千五〇〇ドルの価値があると思います。もし学校を売却する場合は、わが家の庭を少し広げたいので校庭が狭くなります。そうなりますと販売価格も多少安くなります。

ウイノウナで罹った病気やお疲れはよくなれたことと思います。大会に出席できるのは私の生涯の名誉のひとつと考えます。

J・C・ラウリー博士に特によくお伝え下さい。お願いするのを忘れていました。私は彼のことを思い浮かべると喜びがわいてきます。私の帰米中にお会いできないのが残念です。

敬具

トス・シー・ワイン

八月一日にヴァンクーヴァーを出帆します。

## トマス・ウィン書簡 その三

六月二八日

イリノイ州ゲールズバーグ市

北セミナリー通六三〇番地

スペア牧師あて

お手紙落手。それによってバラ氏宛に打った電報と男子学校の財産処分に関する本部の決議を知りました。十分に状況がお分かりにならない本部の処置としてはきわめて当然だろうと思います。しかし支局か、あるいはミッションがその決定に沿って実施しようというなら、本部は目的のはっきりしない財産をいつまでも持つていなくてはならないことになる。そうすると本部としては実際財産管理のための経費がかかるのを考えると、その点を知らせるのが私のつとめかと思えます。私の考えでは、どこかのミッションか、あるいは県が欲しいというのでなければ、ボーイス・スクールの校舎と土地を合わせても、元の金額で売却することはできないでしょう。そのために聖公会が全部まとめて買いたいと考えているのを知って喜んだのでした。実は上に述べた以外の財産を処分する唯一ひとつの方法は、建物を日本で言うところの道具屋に売ることなのです（道具屋の商売は古い家屋を買って取り壊わす仕事もするのです）。一方、土地は別に売らなくてはなりません。本部としては学校を再開するつもりがない、ということを含んでその財産をただ所有しているだけでたえず出費の元になります。昨年初めて建物全部に特別税がかけられ、それは学校が大きな建物のゆえにかなりの金額になりました。修理するにしても、ご存知のようにあの国では負担が大きいのです。ところが一方、建物の価値は増さないどころか、むしろその反対です。前回申し上げたこれらこまごました問題が片づき次第、土地と建

物を処分するのが賢明かと思われます。本部にとって今後その方針を進めるのが費用の節約になることと思います。学校は今まで伝道局の事業として費用をかけただけの価値はあった。もし早目に財産を処分することで何ドル何セントの損失があつたとしても、いつか高く売れる時があるかもしれない、それがいつになるか待っているより損失は少ないでしょう。売るのが遅ければ損失を増すだけです。この問題に関して私はそう確信しておりますが、勿論個人の考えとしての値打ちしかないとを申し上げているのです。本部としては私一人の意見を聞いて実行してもらいたくない。支局やミッションとも相談され、参考になさって下さい。

前の手紙のご親切なお言葉、心より感謝いたしております。あなたが仰っしゃるお気持ちにお礼申します。お返しとして、主にお仕えるあなたにますます力が与えられますように、と願っています。スペア様。

あなたを外国伝道のためにお立てになつてゐる神に感謝いたします。お目にかかれ話が聞けて嬉しいです。

敬具

トマス・シー・ウィン

一八九八年十一月二八日  
大阪、京堀四七八番地にて

ニューヨーク市五番街一五六番地

ロバート・E・スピア氏あて

拝啓

私の意に反して、お便りができないでいるうちにこのように時間が経過してしまいました。私の怠慢をお許しただけのものと感じております。日本に戻ってから手紙の借りが二通できてしまいました。手紙を下さったことに感謝しております。

上記の住所をみて私たちが金沢を去り、あのように愛を注いだ金沢伝道からすっかり離れてしまったのがお分りでしょう。そのように心を決めるのは大変辛いことでしたが、ミッシェンの多くの方々はそのが一番よいことだと考えているらしいので皆の判断に反対する気になりませんでした。私たちはまったく見ず知らずの人々の中に来てしまったわけではありません。外国人も日本人も皆等しく歓迎してくれています。自分たちが望んだものではありませんが、この地でお役に立つことができるならば新しい土地においても仕合せです。

浪速女学校のすぐ近くに貸家を見つけたので家にいてもその淑女の皆さんと私たちは隣人です。家賃は居留地十四番地のミッシェン・ハウス分として受取っている額よりも安いのです。そういうわけですからここへ移るのも許されようと思いましたが、居留地に行くよりもはるかにわれわれの好みに合うのです。

十月十五日、金沢の人々や友人たちとの名残りを惜しみつつ金沢を去りました。八月に金沢に戻った時には、われわれを歓迎して喜

びを最大限に見せてくれました。金沢に到着した後の三日間というもの、ただ訪れる人々を迎えるために家を開放しておくほかなかったのです。私たちに向けられる人々の親切な振舞を見て、言葉に言い表せない喜びに満たされました。

日本に戻ってから最初の便りに同封のような手紙を添えなくてはならず大変申し訳れなく思います。このような困難な仕事を伝道局にさせたくないのですが、ミッシェンとしては現在おかれている困難な立場を切り抜ける方法が他に見つからないのです。事実を申し述べたうえで、本来責任がある筈のD氏が日本に戻るのか戻らないのか、彼の判断に任せる、それ以上の厳しい措置はしたくないのです。同封の手紙はダウティ氏宛に私が書いた手紙の写しです。彼の住所を知らないものですから、ミッシェン・ハウス宛に送りそちらから転送してもらいたいのです。理由の五から五まではミッシェンが最も強硬に実施することになった重要事項です。例の「広島支局における一身上の苦況」という問題は私の考えでは他に理由が何も考えられなかったのなら、解決されていたことでしょう。

ダウティ氏問題に関して最善の結論を得ようと努めていた頃の私たちの苦しい思いは、お分りいただけなのでしょう。

年次総会とともにたれた礼拝は大変よい助けになりました。ミッシェンとしては特に伝道局と主事とを祈りの輪に加えようと決めました。聖日は特にニューヨークの家族であるあなた方のために祈る日にしてあります。

伝道局とダウティ氏としては、この事件について神の導きにより正しい結論へと至ったことがはっきりとお分かりでしょう。そして如何なる結論であろうと、将来その賢明な判断が明らかになるでしょう。

## トマス・ウィン書簡 その三

妻からもよろしくと申しております。

敬具

トス・シー・ウィン

追伸 支局にはミッシジョン用の便箋がないので、この小さな紙を用いました。

二伸 もう少し申し上げたいことがありました。ミッシジョンの中の委員会の私に対する指示は本部とダウティ氏に事件の真相を述べることであります。その手紙はダウティ氏に届くように、伝道局の分は差し控えるようにしてはどうかとわれています。仮りにD氏が予告通り辞任するなら、本部としては事件の全容を知る必要はないでしょう。しかし委員会の議長としてミッシジョンの指示通り実行しなければならぬと私は思ったのです。手紙があなたの手元に届いた後どうすべきはあなたの判断にお任せします。

数日前、ニュージャージー州ドーヴァーのホロウィ牧師から手紙をもらい、その中にはこの教会が私の給与を引上げるのを承諾し、私を派遣宣教師にしようと考えている、と書いてありました。彼の教会にあてて毎月手紙を書くように、と言っています。返事を書きましたが、結局は四半期に一度ということと十分と考えていると言いました。他に仕事がありますし、一ヶ月に一度というのは、負担が大きすぎます。そう思いませんか。私のために一言仰つしゃって下さいますか。私は喜んでドーヴァー教会との通信によって伝道局のお役に立ちたいと思います。そして新しい関係ができたのを喜んであります。時々私宛に教会の便りをして下さる人を選ぶよう頼んであります。まったく一方交通の通信というのは容易でないことがお分りでしょう。

T・C・W・

一八九九年六月一日

大阪市京堀四七八にて

ニューヨーク市五番街一五六番地  
ロバート・E・スピア氏あて

拝啓

ミッシジョンの書記から、金沢にあるミッシジョンの土地を孤児院のために使用することを主な内容とする提議がお手元に届く筈です。この問題について私から伝道局に二、三申し上げなくてはならないでしょう。昨年私たち（私と妻）が休暇から戻ってみると、以前の孤児院の場所を日本政府が必要としたので移転しなければならなかったのです。すぐ近くに六フィート四方（坪）五十銭の値段で、よい代替地を提供してくれました。しかしボーイズ・スクールを再開する見通しもなく、伝道局はミッシジョンに対し男子校を処分してよいとの許可を与えましたので、金沢支局としてはその男子校の裏に孤児院を建てなおしたらよいと思われました。孤児院のためにその土地の大部分を購入するつもりでした。今お手元に届く筈の決議案を通過させるようにミッシジョンに依頼するのが最善かと思われました。もし本部がこの要請を尤もであるとお思いになるなら嬉しいです。本部としては第一の案を実施するのが賢明であると判断されるなら、つまりわれわれが入手予定の孤児院用地を購入する案です、われわれの側として要請をする主な理由はこのためです。孤児院は永続的な事業ではありません。それは続けてこの事業の助手を務めるのに相応しい日本人が見つけれられるかどうかにかかっています。今までの経験からしてそのような人物が見つかるとは断言できません。

孤児院は直接福音伝道的手段であり、宣教の業です。孤児院がある間はいつも伝道機関であつたし、今後もそのようにあり続けるだろうと思います。提案通りに土地使用が認められたとしても、伝道局の明確な働きから逸れることにはならないだろうと思います。その確信がないなら施設はただちに閉鎖されることになるでしょう。

大阪に来て八ヶ月近くなりました。ここでできる奉仕の機会を喜んでおります。浪速女学校の近くの私たちの場所を大変気に入っています。ご存知のように居留地より三マイル半の所に生活しているのでなければ決して出合うことのできないような人々に接しています。それに加えて、福音を聞きたいと願っているすべての人々に応ずるのに足るだけの宣教師がおります。門の横に看板を下げ、福音を聞きたい人は誰でも、またこのことについて尋ねたい人は誰でも招き入れるようにしています。反応は上々です。

一週に一度、十マイルほど離れた堺の町へ行つて説教の奉仕をしています。説教に先立つて英語教室を開き、そこには青年たちがやってきました。

週一回、軍人たちのために教室を開いています。近くに兵舎があり、気持のよい人たちと知り合いになりました。軍人の中には聖書を学ぶのを喜びとしている様子の者がいて、聖日には一緒に教会に行く人もいます。昨日は軍人たちのために親睦会を開き、クリスチヤンの軍医、階級は大佐の人が講演をしました。

私は一年前の総会の時のあの楽しかった二週間のことをしばしば思い出します。私たちは集会や伝道局の財政に関するニュースを知りたいと願っています。

妻からもよろしくとのことでした。

敬具

トス・シー・ウィン

スベア牧師あて

一九〇二年二月十八日  
大阪市川口町にて

先の郵便物の中に、アレグザンダー師が日本に戻れる見込みはないのでホノルルに行かなくてはならない、とのあなたの手紙が入っていました。これはわれわれミッシェンと日本のキリスト教界にとつて大きな損失です。そして皆が同様な思いです。大勢の者がこの事実を悲しみ、残念に思っております。日本でアレグザンダー師ほど大きな影響を与えた人はごく僅かです。

実情をご存知かもしれませんが、彼の家族は彼の給与を頼りにしているのです。ですから、彼が続けてやれそうにないというので私たちは悲痛な思いに駆られております。ましてや当人や家族にとつては尚更でしょう。もしも彼の願っているようにホノルルかロサンゼルスが彼の健康によいというのであれば、彼はまだ教会のために大いに働きができます。ロサンゼルスに日本人たちのための働き場があるなら、むしろホノルルよりよいかも知れません。私の考えでは、どちらかの気候が彼の体のために良いというのなら、私はためらうことなくアレグザンダー師が日本人の伝道のために有用な働き人であるとの私の信念を申し述べます。働く機会さえあれば、彼は無為に時を過ごすようなことは絶対にない。彼の人柄と仕事の能力をよく知っている私としては、そう確信しております。そのようなわけで、アレグザンダー師の手紙に同封したメモに記したことを繰返し申し上げたいと思います。伝道局としては引き続き彼を雇用し、援助するのが正しい処置であるし、またそれは可能だと思ふのです。日本において二四年間、わが伝道局のために最も効果的



## トマス・ウィン書簡 その三

かつ献身的に奉仕したにもかかわらず、何らの資産も持たずに去って行かねばならないかと思うとまことに気の毒でなりません。

今起こりそんなことはまったく考えたくありません。ハワイのアメリカン・ボートに転籍するのが一番よいと思われても、われわれの伝道局の下で働きたいと願っている限り彼は喜んでわが伝道局のために働くし、続けて日本人のために労することでしょう。彼はまた大いに文書伝道の働きができますから、例えば現在大変不足している日本人のための注解書を作るなどの仕事もあります。

援助が大変必要となっているこの時に、アレグザンダー師の地位を確保するようあなたのお力を用いて下さいませんか。

敬具

トス・シー・ウィン

一九〇二年七月三日

大阪にて

スピア牧師あて

同封の回状は、来年大阪で開かれる博覧会に因んで行おうとしている事業の計画です。

その折に、市内の教会とY・M・C・A・が一緒になって、大勢の人々に福音説教が及ぶための特別の事業ができるように願っているのです。

その実行委員の方々の名前は回状に載っておりますが、前回のあなたの手紙で知ったペンテコスト博士がここ一年のうちに特別伝道

活動をするために日本に派遣されるかもしれないという話を、この前の実行委員会の席でしたのです。委員たちは博覧会の時期を博士の大阪にお出いただく最もよい時として、もしできることなら博士の日程をそのように手筈してもらえないだろうか、ということでした。前に申し上げたようにこの二週間、諸教会とY・M・C・A・が特別礼拝をもてるようにと空けてあります。きつとそこに日本の各地から説教を聞こうという人々を集めることができると思います。委員会のこの提案をお考えになったうえで、その結果どのように決まったかを、できるだけ早く知らせて下さい。

妻がマールを連れて広島の人大会に行っておりますので、わが家は私一人きりです。しかしお手伝いさんがよく面倒をみてくれますので不自由はありません。ミス・パースンが訪ねてくれて楽しかったです。二八日に日本を離れた、と耳にしたばかりです。

総会に出された伝道局の報告を聞いて感謝しております。その総会に出席していたならどんなにか嬉しかったことでしょうに。議案の修正はみごとに処理されました。そしてブラウン博士は総会に間に合うように帰国し、この前の視察旅行の成果を総会で報告しました。

ブラウン博士ご夫妻に心からよろしくと申し上げて下さい。

敬具

ティ・シー・ウィン

スベア牧師あて

一九〇四年三月二六日  
大阪市川口三三番地

二、三日、朝食をしているところにあなたからの電報が届きました。内容はただちにこの居留地にいるカンバーランドの友人たちに伝えました。その後それを持って浪速に行きました。

最も早く済む手続きの仕方を確認するため午後は役所に行く手筈を整えました。そこでどうすればよいか、丁寧に教えられました。このようにしてその日午後四時までに二つのミッション・スクールを合併するうえでの法的措置は全部済みました。翌日にはそのことを教師生徒双方に知らせねばなりませんでした。ミス・ガーヴィンが校長として話をした後、ミッション選出理事の私が集まっている教職員、生徒に話をしました。落胆をしていた教師もいましたし、もちろん生徒たちは、学校と生徒一人一人のために働きを為したミス・ガーヴィンと別れるのを残念がっていました。今回の賢明に考えられた計画であつて、やがて関係者全員の満足のいくものになろうかと思えます。

今朝の手紙で、昨年の春の総会において指名された委員会の手による二つの教会の合同計画案が届きました。合同によつて実に大きな効果がもたらされるように思われます。伝道戦線において、本国の教会に一步先んじることができて嬉しく思います。

新聞でご存知のことでしょうが、日本とロシアの戦争によつてわれわれが危険な目に会うことはありません。日本の艦隊の手で制海権が握られているので、日本の本土侵略はあり得ないでしょう。もし損害を被ることがあるとすれば、それは朝鮮にいる同僚宣教師たち

です。実際の戦闘は朝鮮よりもっと内陸で行なわれることと思います。戦争の結果、新たに伝道の機会が生まれました。今までのところ宣教師に対して目に見える形での妨害は起きていません。もちろん皆が福音とそれを伝える者たちのために一層道が開かれるようにと祈つております。私はそれがほとんどすぐさま現われた結果だとしか考えられない、つまり日本が勝利するなら、それに続いて早急に結果が生じるだろうということです。

この町において伝道局の手により迅速かつ順調に二つの女学校を合併する措置がとられたので大阪支局としては感謝をしています。これでもつて、われわれが望んでいたような直接伝道活動を行う時間と勢力が確保できるようになります。

お察しの通り、来年には本国での休暇を期待して楽しみにしております。長女が現在日本のわれわれの所に来ていて、遅くとも九月、われわれが帰国したらすぐに結婚をすることになっています。

われわれが本国にいる間に、ロサンゼルスに出て来られたなら是非お会いしましょう。そうして下さればどんなにか嬉しいことでしょう。

敬具

ティ・シー・ウィン

## トマス・ウィン書簡 その三

一九〇五年九月二日

カリフォルニア州ロサンゼルス市W通五七番三二九

スベア牧師あて

ニューヨークのあなたの手元に戻った手紙、数日前に落手しました。故国に暖かく迎えられ、帰国中楽しく過ごすようにとのお言葉、感謝しております。ニューヨークやブルックリンなど東部地方にまで行ければ喜びはきっと大きいことですが、今は行けるかどうか断言できません。家族の中に大学の四年生が二人もいるので出費が嵩みます。ここだけの話ですが、この数年わが家は財政危機に見舞われ、本国に在る間も伝道に一番役立つもの、生活の必需品以外の出費は考えられないのです。日本における伝道について講演をするように招かれ、求めに応じています。講演は大いにするつもりです。またこの町に在る日本人たちのための伝道にも否応なく拘わることになります。その伝道の重要なことが分かるので、この地の教会を助けるのはわれわれの望むところであり、前よりも一層励みたいと思っております。この種の努力は必ずしも不首尾に終わることはないだろうというのが私の意見です。すでに多くのしるしを見ているからです。

今日は特に次女のジュリアについてお願いしたいことを書きます。娘はわれわれが来年日本に帰る時、それに間に合うようボードの任命を受けたいと願っているのです。ジュリアは来年六月にオクシデンタル大学を卒業する筈です。体はきわめて健康で、現在十九才と六ヶ月ですから、宣教師として行く前に一才年齢を加えることとなります。昨年彼女は学生ヴォランティアとして霊的恵みをたくさん受ける経験をしました。日本語をすっかり忘れてしまったわ

けではありません。少しは話せます。ご存知のように彼女は日本生まれですから、むしろこの点では私たち両親よりも有利な立場にあり、またその他の利点もあげられます。この問題を持ち出すのはおそらく時期尚早かもしれないが、彼女としては私にそのようにして欲しいと願い、志願するにはどのような手続きをふめばよいか助言を求めています。娘の場合、日本に行く前に特別に一年の学びをどうしたらよいか助言をすることができませんでした。というのは現在娘は伝道に加わっているし、すでに数年間にわたって携わっているのです。さらに日本における伝道がどのようなものであるかも承知しています。私の考えでは、一、二年日本で母親と一緒に働くのに勝る学校は彼女にはないと思うのです。彼女はあの年齢としては分別もあり、必要とする推薦は大学からも所属教会からもきつと得られるものと信じております。今後のあなたのお心積りのために、他の二人の子供たちもやがて日本宣教に任命されるようお願い出るつもりです。長女が申すことには、もしもある若者が現われなかったなら、学生ヴォランティアを続けていたことでしょうにと。彼女はここ二、三週間のうちに結婚することになっているのです。

これを書きながら、日本に戻ることに関する伝道局の規定について知りたいと思いました。われわれが戻る時期は、来年八月下旬よりも以前にするように、というのでしょうか。規定では十四ヶ月、つまり七、八月を二回とも仕事から離れておれるように聞いているのですが、規定の正しい解釈はどうか知らせて下さいますか、来年の夏には親族の懇親会を盛大にしようとして計画しています。そういうわけでわれわれが出席できるのが七月なのか八月なのか、すぐ知らせてやらなくてはなりません。

歓迎の手紙に感謝して、妻からもよろしくと申しております。お

蔭で妻の腕もよくなってきました。痛みは大したことがないので  
すが、腕が元通り完全に使えるようになるのはかなり先になります。

敬具

ティ・シー・ウィン

一九〇六年五月十一日

大阪にて

スぺア牧師あて

同封の手紙で明らかでしょう。その手紙を直接大統領宛に発送しようと思いましたが、大統領の手に届くのはおろか、秘書の手に渡らないのではないか、と思ったからです。また誰れか地位の高い人の推薦があれば、具合よく事が運ぶかもしれないとも思いました。あなたが賢明と思われるいかなる手段を用いても、その手紙によつて提案しようとしている事柄を確かなものにするための、考え得る手立てをお用い下さい。その方法が見つかりますように。取り立てて何もして下さらなくても、封筒に入れ発送していただければ有難たいです。内容は極めて重要な問題です。世界の三大指導者が日本の天皇睦仁に人間としての影響を与えることによつて、イエスキリストを信ずる範を国民に垂れるようになったとしたなら、世界が目を見張ることでしょう。

一週間ほど前の手紙で、借家についての困った問題は少なくとも当面は調整がつくかもしれない、と書きました。契約を書き換える見通しがつき、数年は調整がきくことでしょう。きっとインブリー

博士が絶えずお知らせ下さっていることと思います。

会計年度のわれわれの予算承認を伝える書類をたつた今読んだところ  
です。伝道局がわれわれの事業のためにご努力下さったことに感謝いたします。主の力がわれわれ宣教師一同と共にありますように。

敬具

ティ・シー・ウィン

一九〇六年五月十四日

大阪市川口町三三番地

合衆国大統領・文学博士

セオドア・ローズヴェルト閣下

日本国とロシア国の間に和平を確保しようと昨年閣下がなされた  
ご努力に対し、全世界の者が起立して敬意を表しております。神の導きにより両国間の調停者となりましたが、さらに大きな祝福を日本国にもたらす道が開かれるように閣下にご一考願いたく思い、あえて一言申し上げる次第であります。

日本国の天皇陛下をイエスキリストによる福音に導くようにこれまで多くの努力がなされてきました。それらすべてが効を奏したとは思われません。陛下ご自身とあわせて皇后、皇太子、皇女の方々がキリストの福音に与かるようにと多くの祈りがなされてきたし、今も続けられております。

昨日か一昨日の晩、床の上で黙想中の私にひとつの思いが浮かび

ました。それは、敬意を払ってその願いが聞き入れらる人物は日本には誰れもないが、神のもと、まことの神と御子イエスキリストの信仰の問題を提起できる偉大な方が一人だけおられる、ということでした。

それができる唯一の御方こそ合衆国大統領その人です。感謝すべきことにこれは真実です。ますます勇気をふるって大統領閣下に懇請文を書き送ります。と申しますのは、福音教会同盟のある時の会議に招かれた際の閣下のお返事を拝読したからです。私の記憶に違いがなければ、閣下は日本の教化のためにも同盟が十二分に成果を収められるように願っておられました。天皇が天地創造の神を信仰するようになったとしたならば、日本の教化にどのような影響をもたらすか、誰れにも計りがたいものがあります。閣下が叡智の導くままに日本の天皇にこの問題を私的に提起なさるならば、少なくともこのことを天皇に考えていただけるものと信じております。そうすることによって天皇をキリスト教に帰依せしむるという理想的目的に至ることもあり得るかもしれない。その時、文字通り神の国に入るその日、新しい国家の誕生を見ることになるでしょう。

この手紙を書き始めた後に、このようなお役目を閣下お一人だけでなく英国王およびドイツ皇帝とご一緒になって、神と救い主イエスキリストを信ずるよう日本の天皇にすすめるのがより優れた計画ではないかと思われました。

方法についてはともかく、この発展しつつある国家の支配者に大統領閣下が、真理はイエスキリストにあり、との方向転換もあり得る働きを成し遂げられるならば、素晴らしい業績の閣下の生涯においてもそれは最大の功績になるうかと存じます。人類の向上のために閣下が尽くされた素晴らしい経歴の中で最大の業となることでしょう。

聖霊により知恵と恵みが閣下の上に与えられ、現代における最重要事を為さんとするその努力が達せられ、主イエスキリストに従う者の特権となるように祈ります。

最大の敬意を表して

長老教会宣教師

トマス・シー・ウィン

一九〇六年六月八日

大阪にて

スピア牧師あて

ミッションの承認が得られるならば、一年間満州のダルニーに行ってもよい、と妻が言っているのを知って驚かれたことでしょう。グリースン氏の手紙を同封しますから、それによって私が説明するよりももっと事情がお分りになることと思います。グリースン氏の私宛の手紙で、彼がダンロップ氏に書かれた内容と私がダンロップ氏のダルニー行きに賛成投票するように求めているのが分かります。グリースン氏の手紙を手にする少し前にダンロップ氏からの電報が届いて、それにはダンロップ氏とダルニーにある日本人教会の代理人としての丸山氏がその日私に会いに来ると書いてありました。さて二人が伝道教区の書記を伴いやって来て、私たちに招聘問題を提示しました。満州における日本人教会が衰微すれば必ず伝道の展望が危機に晒されてしまうであろう、というような話でした。われわれとしてはミッションの裁決を待ちますが、おそらくこの計画

は承認されることになるでしょう。今月はどこかに逃げ出してしまいたい心境です。

本国の友人たちに此の度の移動のことを書き教会を通して引越に要する不意の出費に見合う献金を送ってもらえまいかと書きました。多分それは伝道局宛に寄せられるでしょう。デイ氏がただちに資金からわれわれの赴任に要する支出を賄えるだけの収入があったと聞いても驚くことはないでしょう。それは極めて重要な問題なので、ミッシェンが責任をもって処置し、後に伝道局に報告する事項でした。われわれが初めて金沢に赴任した時にもそうでした。チャンスというのはただちに行動に移さなければ活用できないものです。伝道局が全面的にその措置を裁決して下さって私は嬉しく思っています。もしかして伝道局が承認しないのではないかという不安は今回の場合ありません。われわれが行くことにより日本人教会が励まされ、日本人が勢力を広げようとしている地域に福音を伝える働きをしたいと思っています。

またわれわれが行くことにより協力問題の解決にも大いに役立ちたいと思います。私が大変驚いたことには、大多数の中学が教会規則に従い大会の決議を採択している、という点を報告したほうがよいと思います。けれども日本人の信徒たちは以前よりも協力し合って働きを進めていくうえで何か共通の、そして相互に満足の見い出せる行動を起こすように努めているのは事実です。必ずやよい結果が生まれることと確信しております。この極めて重要な方面に行くに当たり、伝道局の友人たちが特別に祈りをしてくれるものと信じています。われわれは日々豊かな恵みをいただけるとの確信がなければとても行くことはできません。自分たちをこの特別の業の働きに、生きた供え物として捧げようとしていることが主によしとされる結

果になるように特に祈るものです。

満州での新しい住所を知らせるまで郵便物はここ宛に送って下さい。

御令室様、ブラウング夫妻によりしく申し上げて下さい。

敬具

ティ・シー・ウィン

追伸 私はダルニイ教会の牧師としてではなく、伝道宣教師として行くのです、教会員たちはそういう趣旨でもって私の申出を受諾しました。

スベア牧師あて

一九〇六年十月十七日  
満州、大連にて

手紙の最初に日本人がダルニイにつけた地名を書きました。現在東洋人の間ではここをタイレンという言い方で通っているのです。ここへ向けて出発しようとしていたのに、事情によりそれが遅れたことについてお聞きになっているかもしれません。六月には出発の準備が整っていたのに、その出発間際になって日本政府が旅券を発行しようとしません。そして当地に西洋人が住むことも、商売をすることも全面的に解禁となるからそれまでわれわれに待つてほしい、とのことでした。解禁の時期については通知がいつあるのか確認のしようがありませんでした。係官によって言うことが違い、はつきりしたことは何も分かりませんでした。そこで、これ幸いと

金沢での会議に行くことができ、ちょうど日本に着いたばかりのジュリアにも会えました。そしてちよつとだけ一緒に過ごしました。

金沢に行っていた時に、アメリカの大使が解禁は九月一日から、と知らせてくれました。その日には大阪から立派な船が出るのを知って、それに乗って新天地へと出発しました。神戸から三日と数時間、極めて快適な船旅をして、目的地に到着しました。船会社の社長はかつて金沢で私の教え子でしたから、荷物の輸送分と船賃を大幅に割引してくれたので、百十ドルほど引越しが済みました。しかしその他に破損やら何やらで引越の費用の半分以上の金が私の支払いになりました。窮迫している中でそのような出費には応じられそうにないと思われましたが、それでも切り抜けることができました。

ここに来て十二日ほどたった頃、土地に因んでいわゆる満州チフスと呼ばれている病気に倒れました。チフスといっているが本当は赤痢かそれに近いものです。九月十七日かに病気に罹りました。鉛筆を使っているのは、ベッドにやつと体を起こして手紙を書いているからです。一週間前からずっと快方に向かっていて、三人の医者が別々の時間に往診して下さり、毎日少しずつベッドの上に起き直るようになった方がよいらしいのです。二、三度病気が振り返したので、あと数日ベッドにいてからもう一度起きる稽古を試みたい、と医者には話しました。医者も同意し、今では本当に良くなっていると思います。今朝はもう七分も起きているのに、そのために気分が悪くなることはありません。これからどんどん快方に向かうことと思います。医者が三人付いていると書きましたが、その一人は私の回復を待つて洗礼を授けることになっているのです。もう一人は当地の病院の責任者を持っている政府の医師です。大連政府の長が大変友好的な役人であって、数回にわたり彼を遣わし私が十分治療を

受けていることや、快方に向かっているのを確かめました。親切な話ではありませんか。二度ほど本人自ら見舞ってくれて、私の大連赴任を喜び、いつでも役に立てることがあったらそう言っしてほしいと申しています。三番目の医者は合衆国を代表する領事E・J・ジョーンズ医師です。

病気になる前に彼とは行き来があり、私が病気と聞いてただちに駆けつけ、それから毎日町にいる時には寄ってくれます。大変思いやりのある親切な男です。病状は確実に快方に向かっていると言ってくれ、私の食事についても助言を与え、楽になり助かっています。日本人の医者の方に何か手落ちがあったり、心配な徴候が見られたりする場合は彼がすぐ駆け付けて援助してくれるつもりでした。心からの親切で、あなたからワシントンの国務省に一筆書いて、病氣中に私たち夫婦にして下さったジョーンズ医師の親切に謝意を表わして下さると有難たいです。病氣のために一旦は中止状態になっていた満州での仕事にやつと取り掛かりました。あなたがペルシャでチフスに罹かったことを思い起こされれば、私が失望している気持ちが分かります。

私たちの住宅は政府の計らいで、無料で貸し与えられました。お蔭で月に百五十円から二百円は助かるでしょう。

日足大佐が住宅を確保できるように頑張つて下さったのです。そうでなかったなら、一体私に何ができたか分かりません。おそらくはここで当分生活しようという考えを放棄していたことでしょう。

お尋ねの点についてお答えします。満州行きの候補者として最初に私の名前をあげたのは東京の植村先生です。私の知る限り主だった人々がその案を支持しました。日足大佐から聞いたことですが、この教会からの招聘を伝えた丸山氏は私に給料を申し出るという誤

ちをおかしたというのです。

教会側の願いはミッシンがここに正規の伝道支局を開設し、私にその教会の牧師になってほしいということです。ここでの状態は、少人数だが熱心なクリスチャン集団があり、やがて教会を助け、確りとした教会を作り上げる、その手伝いができそうです。教会員との関係は彼らが私のことを自分たちの牧師と考えている点を除けば、日本で私がしてきた仕事とあまり変わらないことでしょう。

わが家は町の中央に位置した角地にあります。片側には、子供の頃イリノイにあった昔のタウン・スクウェアと言っていたような広場が見渡せます。住宅に接して広い立派な空地があり、政府はそれを教会建築用地として提供してくれました。教会堂はどうしても必要になります。(今述べた政府の手によつて、という個所は印刷させない方がよいでしょう。もしかして差し支えがあるかもしれませんから。)

今日はこの辺で筆をおかなくてはなりません。手紙はすべてダルニイかもしれないが日本経由の宛名にして下さい。あなたからの手紙はロシア経由で八週間以上かかっています。『西日本伝道報』を一部送っていただけませんか。

あなた方ご夫妻のご不幸を知りました。妻と共に、主の慰めが感じられるように心から祈っております。

敬具

ティ・シー・ウィン

スベア牧師あて

前回の便りからもう二ヶ月が過ぎてしまいました。回復しつつありますが、長引く私の病氣のことについて書かなければいけなかったでしょう。有難たいことに今こうして元気になったことを心から感謝しているのです。五週間の長きにわたって閉じ込められたりしたが、六週目の聖日には教会に行つて聖餐式と洗礼式を執り行うことができました。聖日の礼拝のたびに大きな喜びをもつて説教の奉仕が許されております。この地に立派な教会が成長しそうな兆が見え始めました。

教会としては東京中会に加わるよう申請をしましたが、その返事は少なくとも当分は単立の立場を続けること、牧師の確保を最も重要な問題として進めなくてはならないこと、さらにその町と国とに福音伝道の努力をするようにと、いうのでした。

教会員が皆熱心に教会堂の建設事業に取り組み始めました。ここ二週間のうちに、この建物と土地の両方、それに隣接する空き地も、地代を取らず教会が使用できるように伝える政府の特別秘密文書を教会当局に手渡されました(政府はいかなる土地についても売却ではなく貸与するのです)。われわれに隣接する空き地はかなり広く、教会用地としては最適な場所です。来年の七月か、さもなくば八月までにはわれわれの願っている会堂が使用できるようになるでしょう。費用は一万五千円かかる見込みです。すでに一万二千円が確保できましたから、借金はしないつもりですが万一するようになったとしても借入れ額はそう大きな金額にはならないだろうと思います。そ

一九〇六年十二月二四日  
満州大連市伊勢町一番地



の間、礼拝に用いる予定の建物の写真を送ります。年末に日本に戻るようにとのお誘いがあつても参りません。教会の人々の願いは、われわれに留まるように、というのであつて、そうでないと皆を失望させることになるでしょう。二日後われわれと一緒に休暇を過ごすためジュリアがやってくるようになっていきます。今頃は海上の船の人でしょう。あなたと奥様にクリスマスと新年のご挨拶を、妻と共に送ります。

敬具

ティ・シー・ウィン

一九〇七年十二月三十一日

満州、大連にて

ニューヨーク市五番街一五六番地

ロバート・E・スベアアて

拝啓

前回は七月に金沢に行った折に便りをしました。マールの帰国旅費についての問合せにはお答え下さっています。伝道局決定はまだ何も知らされておりません。あなたに手紙を書いた時私の計画では、マールは日本の神戸を立つ船の予約をしておりました。しかし彼が発する時になって、母親は彼がまだ学生生活に戻るほど丈夫になっていないのを心配して彼を行かせることができませんでした。マールには来春シベリア経由でアメリカに帰国する予定の友人がいて、彼と一緒にいきたいのです。もしシベリア経由

で行くようになって、太平洋を渡る旅費は支給されるだろうと考えているのですが、いかがですか。来年三月までにあなたから、それは違うのだ、との通知がなければ私としては当然支給されるものと受取ります。

金沢に滞在した時に、それから先月かあるいは今月の初めにもう一度、ウェノナのゲージ氏に手紙を書きました。秋に私たちがこちらに戻ってから、役所の人事に大きな移動があつて親しい友人を失い、また新たに得もしました。昨年の今頃より会衆はやや多くなつたように思います。しかし事態がどうなろうとひとつだけ確信をもっています。それは福音を語る喜びと自由に勝るものはないということです。そして会衆がよく耳を傾けてくれることです。誰れかが、いい説教であつたとか、恵まれた説教であつた、とか何か言ってくれるのに励まされることもあります。このように書くのはあなただけなのですから、どうぞお許し下さい。

この地に教会の基礎を築く助けをしていると知って大きな喜びになります。九月初めに戻った時点で、教会が私を招聘した期限が切れましたが役員会は、期限を付けずに名誉牧師として働くようにと心から私を招いて下さいました。しかし私は、もし皆が一流の日本人牧師を招聘するだけの謝儀が出せるようになれば、そうするであろうという事は知っているのです。これが彼らにできる最善のことだから、私を雇っているのです。この事実を知って私は謙遜な思いにさせられます。

今月十五日に美しい新会堂の献堂式をいたしました。『ジャパン・エヴァンジェリスト』の求めに応じ短い文章を寄稿しました。それをご覧になることでしようから同じものを書かなくてもよいでしょう。

この地に小さいながら英米人からなるグループがあります。その中の何人かが私の所にやってきて、時々自分たちのための集会を開いてほしいというのです。新しい教会に移るまで、そのような集会を持つ場所がなさそうでした。しかし総会において九月から会堂の使用許可を得て、月に二度集会を開けるようになりました。毎月第一と第三聖日の午後に、ヨーロッパ諸国の人々と、誰れでも英語がわかる人々のための礼拝をしています。横浜の合同教会が牧師を招聘し、与えられたのを知りました。私の伯父ブラウン博士がほとんどその最初からあの教会の牧師であつたのだと思うと嬉しくなります。そしてこの地において小さな出発から成長していつて、伯父の時代の横浜での伝道による信仰と同じくらい、いやそれ以上になるだろうと思われる理由が多くあります。

これからの数ヶ月の間に教会の中に関心が高まり、成功するよう期待をしております。この秋には、奥地のどこから招きを受けでも応ずることはできずにあります。ミッションとしてはそのような伝道についてまだ何ら予算措置をしてないからです。或はもつと上手な言い方をすれば、われわれに認められているものはすべて私を信用して前渡しを受けた昨年度分支払に当てられて使いきってしまったのです。伝道局が本国において財政困難に陥らないよう、また他の伝道局も窮迫しないように願うものです。

二日前、この地のイギリス副領事のところに長男が誕生しました。妻が経験を生かしてパーレット夫人を助けています。彼らはその助けを得て大変感謝しています。このことをきっかけとして私たちの間に新しい絆が生まれることでしょう。女同士お互に引かれるものがあります。パーレット夫人はまことに優れた方だと思えます。彼女は英語による礼拝に手を貸してくれています。年は若いけれども

大変女性らしさを備えております。このように大連には立派なヨーロッパの友人がいるのがお分かりでしょう。アメリカ領事は日本のP・C・ゴーマン博士の息子です。そして私のよき友、また伝道のよき理解者です。

妻と共にあなた方ご夫妻、友人の皆さんに新年のご挨拶申し上げます。

敬具

ティ・シー・ウィン